

葵

54号 令和2年度



静岡県立中央図書館報

目 次

巻頭言	静岡県立中央図書館長 三科 守	1	
I 当館の概要		2	
1 沿革	2 令和2年度基本方針・事業体系	3 組織図	
4 職員	5 予算	6 資料 (1)収集基本方針 (2)資料概要	
II 事業報告(令和元年度)		12	
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年(令和元年度)		13	
(1)図書館をめぐる社会情勢と本県の動き	(2)静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組		
(3)県内市町の新図書館設置の動き	(4)静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催		
2 利用状況統計		18	
(1)県立中央図書館利用状況	(2)協力貸出	(3)レファレンス	
(4)静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況	(5)歴史文化情報センター利用状況		
3 図書館資料充実状況		21	
(1)図書資料	(2)視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等		
(3)逐次刊行物(新聞・雑誌)			
4 図書班		23	
(1)図書資料の充実	(2)視聴覚資料の充実	(3)図書館利用状況	
(4)予約・リクエスト・相互貸借	(5)子ども図書研究室		
(6)グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」	(7)静岡県視聴覚ライブラリー	(8)展示他	
5 新聞雑誌班		30	
(1)逐次刊行物(新聞・雑誌)の充実	(2)提供情報の充実	(3)その他	
6 一般調査班		32	
(1)レファレンスサービス	(2)市町立図書館などへの支援		
(3)特別取扱資料等の保存と公開	(4)その他の関連事業		
7 地域調査班		37	
(1)地域資料の充実	(2)提供情報の充実	(3)資料展示	
(4)市町立図書館への支援	(5)地域資料のデジタル化	(6)歴史文化情報センター	
8 企画班		39	
(1)図書館職員研修	(2)利用者からの意見	(3)イベント等	(4)図書館サポーター
(5)職場体験学習等	(6)図書館広報	(7)ムセイオン静岡	(8)浙江図書館との友好提携
(9)山梨県立図書館との連携協定	(10)市町立図書館等受取サービス		
(11)海外技術研修員の受入れ			
付属資料 令和元年度「静岡県立中央図書館来館者アンケート」集計結果			
9 振興班		51	
(1)市町立図書館振興	(2)関係団体との連携	(3)協力車事業	
(4)令和元年度 静岡県図書館大会			
10 総務班		56	
(1)図書館協議会	(2)施設設備の維持管理	(3)施設利用状況	
11 健康医療情報サービス		58	
(1)サービス内容	(2)関連事業		
12 歴史文化情報センター(地域調査班)		59	
(1)県史編さん資料の保存・整理・公開	(2)利用状況		
13 資料紹介 戦前の静岡県史資料等(その6)		60	
III 施設及びサービス案内		64	
1 図書館配置図	2 施設の概要	3 ブラウジング・閲覧室案内図	4 利用案内(令和2年度)
表紙			『上村翁旧蔵浮世絵集』

平成 29 年 6 月に発見された閲覧室床のひび割れも修復され、閲覧室が再開して 1 年が経ちます。

ハード面での安全安心が確保された昨年は、ルーチンとしての資料収集と提供、各公共図書館と連携協力した相互資料貸借・協力貸出、読書・読み聞かせ・図書館資料に関連する各種講演会の実施、市町立図書館職員や学校図書館司書のスキルアップのための各種研修会など、当館が果たすべき役割に地道に取り組むことができました。また、ここ 2 年ほど中止していた、学校教育・大学研究機関との連携である中高生職場体験学習や大学生インターンシップも再開できました。

令和元年度は、当館が県立中央図書館としての従来の姿を取り戻した年となりました。

また、昨年度は、研修会、講演会において、教育活動支援事業として学校教職員を対象とした「著作権、情報リテラシー」研修会（8 月）、知事部局との連携協力事業として、文化・観光部主体のラグビーワールドカップに関連した展示と講演会（9 月）を実施しました。どちらも新しい試みでした。

学校教育は、著作権について、授業では許容される部分が多く、教職員は安易に著作物をコピー・印刷・配布しますが、教育活動に位置づけられるが授業ではない文化祭や運動会、ホームページ関係等は様々に抵触し制限がかかります。参加した教職員からは、教育活動において、著作権について留意しなければならないことを初めて学んだこと、また、情報リテラシー研修では、国立国会図書館へのアクセスや、学术论文が閲覧できるサイトの活用などを知ることができ、大変有意義だったという感想をいただきました。

知事部局と連携したラグビー関係の展示、講演会は大会開始 1 週間前の設定で、その後のワールドカップは日本中が盛り上がりましたが、イベントとしてタイムリーな話題が提供できました。展示した関連書籍を手に取り、借りていかれた方もいらっしゃいました。こういった連携協力による研修や講演がきっかけとなり、図書館の有する様々な機能への評価・関心の高まり、また資料活用の動機付けにつながっていけば幸いです。

今後も、当館が保有する資料やノウハウを、当館に直接アクセスされる利用者に加え、県内公共図書館、学校教育機関や行政機関等に積極的に提供・活用していただくことを通して、より広く県民の皆様のお役に立つ図書館でありたいと思います。

役に立つ図書館という意味では、利用者の皆様の御意見御要望を適時的確に把握することがサービスを提供するうえで大切なことです。当館では、そのひとつとして、2 月当初に来館者アンケートを実施しました（有効回答数 340）。結果については、今回の葵の p47～p50 に掲載しています。利用する方の生の声を聞くことのできる貴重なデータであり、課題も見えてきます。

総合的な満足度（満足・やや満足）では、95.4%という数字が出ていますが、個々の項目においては、開館日・開館時間、蔵書数・蔵書構成やウェブサイトの機能等、80%台の満足度にとどまっており、どのような対応が可能なのか考えていかねばなりません。

また、来館者の約 9 割は静岡市在住の方で、しかも当館の来館方法については自家用車使用が 6 割を超えています。当館の所在地からすれば、当然予想される数値ではありますが、県内全域の図書館サービスを使命とする当館としては、こういった制約の中で、いかにして広域サービスを充実させていくかも大きな課題です。

JR 東静岡駅南口県有地への全館移転・新館整備計画が進展している中、令和 2 年度も職員一同、県民の皆様からの期待と御要望に応えるべく、常に足元を見つめながら、現有施設での精一杯のサービスと、新館開館に向けての準備作業について最善を尽くして取り組んでまいります。

I 当館の概要

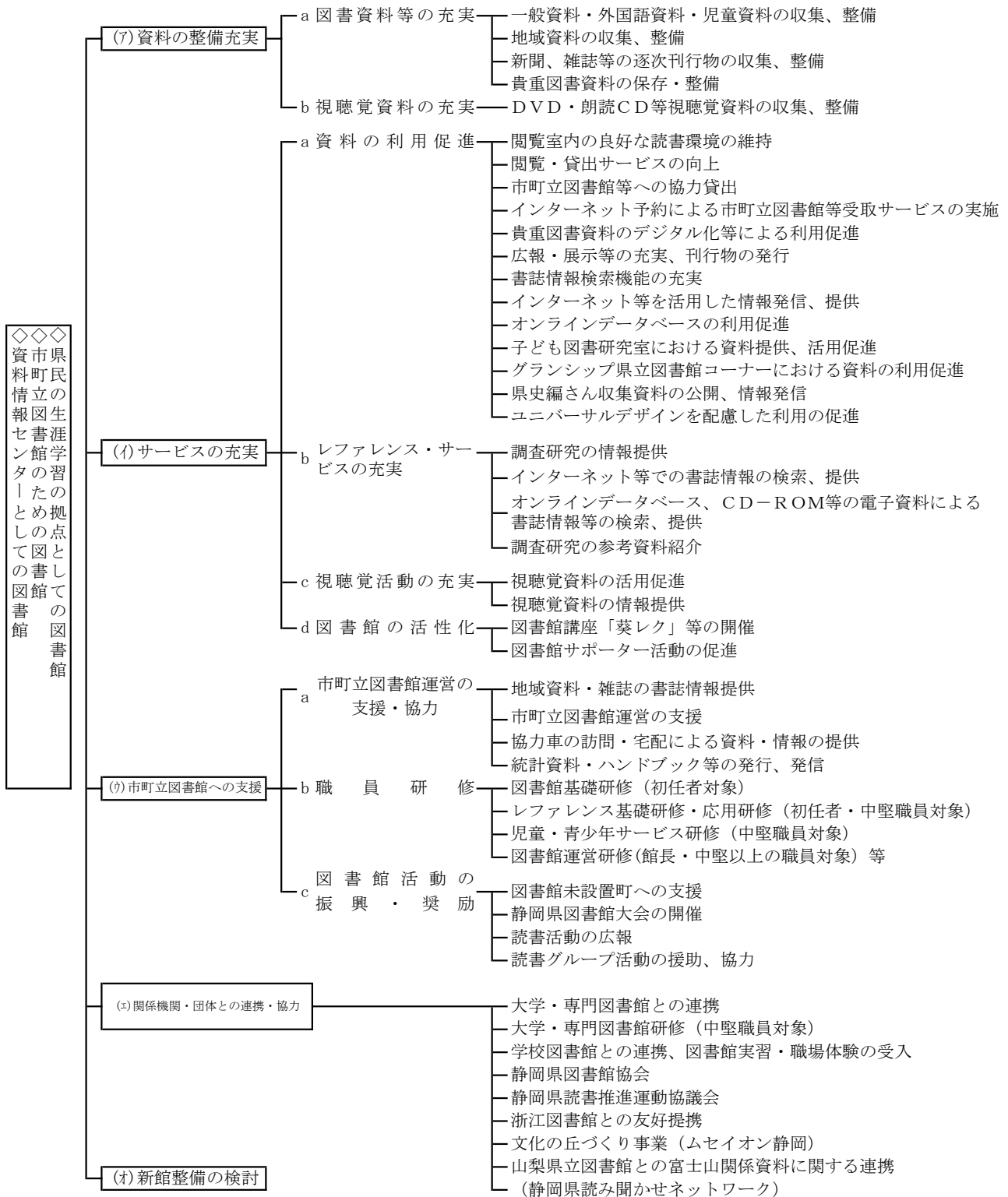
1 沿 革

大正10年11月17日	徳川家の記念事業として渋沢栄一氏等の寄附を得て、静岡県立図書館設立を県会に提案議決。 設立費17万円
大正13年10月	竣工
大正13年10月30日	貞松修蔵初代館長就任。開館準備事務を開始
大正14年4月1日	「静岡県立葵文庫」開館（蔵書約22,000冊、職員16名）
昭和3年11月3日	徳川頼貞氏、駿河版『群書治要』47冊を寄贈
昭和4年6月	山梨稲川百年祭記念事業として、『山梨稲川集』全4冊を刊行
昭和5年5月28日	昭和天皇陛下本県御巡幸第1日、静岡県立葵文庫に行幸、稀観書等を天覧
昭和8年9月	改正図書館令により、葵文庫が本県中央図書館に指定
昭和8年11月1日	10周年記念式典を挙行
昭和12年8月30日	シヨメールの百科全書を邦訳した『厚生新編』を復刻頒布
昭和20年6月20日	戦災により、講堂及び付属木造箇所を焼失
昭和25年12月	「静岡県視聴覚ライブラリー」を静岡県立葵文庫内に設置
昭和28年4月1日	「日米文化センター」が静岡県立葵文庫に併置
昭和31年11月1日	図書館法に基づき、「静岡県立中央図書館葵文庫」と名称変更
昭和33年9月	課制を導入し、庶務課、整理課、奉仕課を設置
昭和36年4月	自動車文庫「あおい号」誕生、「茶の間のひととき読書」運動開始
昭和38年9月	文化センター建設準備委員会を設置し、基本計画の策定を開始
昭和42年4月	「日米文化センター」を静岡県日米協会に移管
昭和42年12月26日	文化センター基本計画に基づき、新図書館建築着工
昭和44年3月18日	新図書館完工
昭和44年6月30日	静岡県立中央図書館葵文庫を閉館、新館移転作業を開始
昭和44年7月12日	「静岡県文化センター設置条例」が制定され、「静岡県立中央図書館」と名称変更
昭和44年8月1日	新館に移転を完了、開館準備事務を開始 「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則（以下「組織運営規則」という）」が制定され、庶務課、資料課、整理課、事業課の4課を設置
昭和45年3月20日	「静岡県立中央図書館協議会条例」及び「静岡県文化センター使用料条例」を制定
昭和45年4月18日	県文化センター開所、静岡県立中央図書館開館式を挙行。20日から一般公開
昭和49年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、各課に2係制を導入
昭和50年11月10日	50周年を記念して『50年のあゆみ』を刊行
昭和60年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、庶務課を総務課に改正及び「静岡県視聴覚ライブラリー」設置を制定
昭和60年11月6日	静岡県立中央図書館協議会から「今後の県立中央図書館の在り方」について答申
昭和62年4月	静岡県公共図書館振興対策事業の実施（5か年計画）
昭和63年3月1日	「図書館利用規程」を改正し、市町村立図書館等への協力貸出を充実
昭和63年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、事業課を振興課に、普及係を協力係に変更
平成元年4月20日	静岡県立中央図書館協力車の運行開始
平成6年3月29日	電算システムによる業務を開始 電算導入に伴い、図書館等利用規程を改正
平成6年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、総務課、企画振興課、資料課、調査課の4課に変更
平成10年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、資料課地域資料係を調査課地域調査係に、調査課逐次刊 行物係を資料課新聞雑誌係に、調査課調査相談係を一般調査係に変更 閉館時間を、毎金曜日に限って午後8時まで延長
平成10年10月1日	Webサイトの開設（蔵書検索、貴重書、浮世絵、絵図等）
平成11年3月13日	グランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナーを開設
平成11年4月1日	歴史文化情報センターを、静岡県教育委員会文化課から静岡県立中央図書館に移管
平成12年4月1日	閉館時間を、毎水曜日、木曜日、金曜日について午後7時までに変更
平成12年6月1日	「デジタル葵文庫」インターネット提供開始
平成14年1月1日	資料棟地震対策緊急整備工事・特別整理のため、静岡県立中央図書館休館
平成14年2月18日	資料棟地震対策緊急整備工事着工。休館中の県民サービスとして、県女性総合センター「あざ

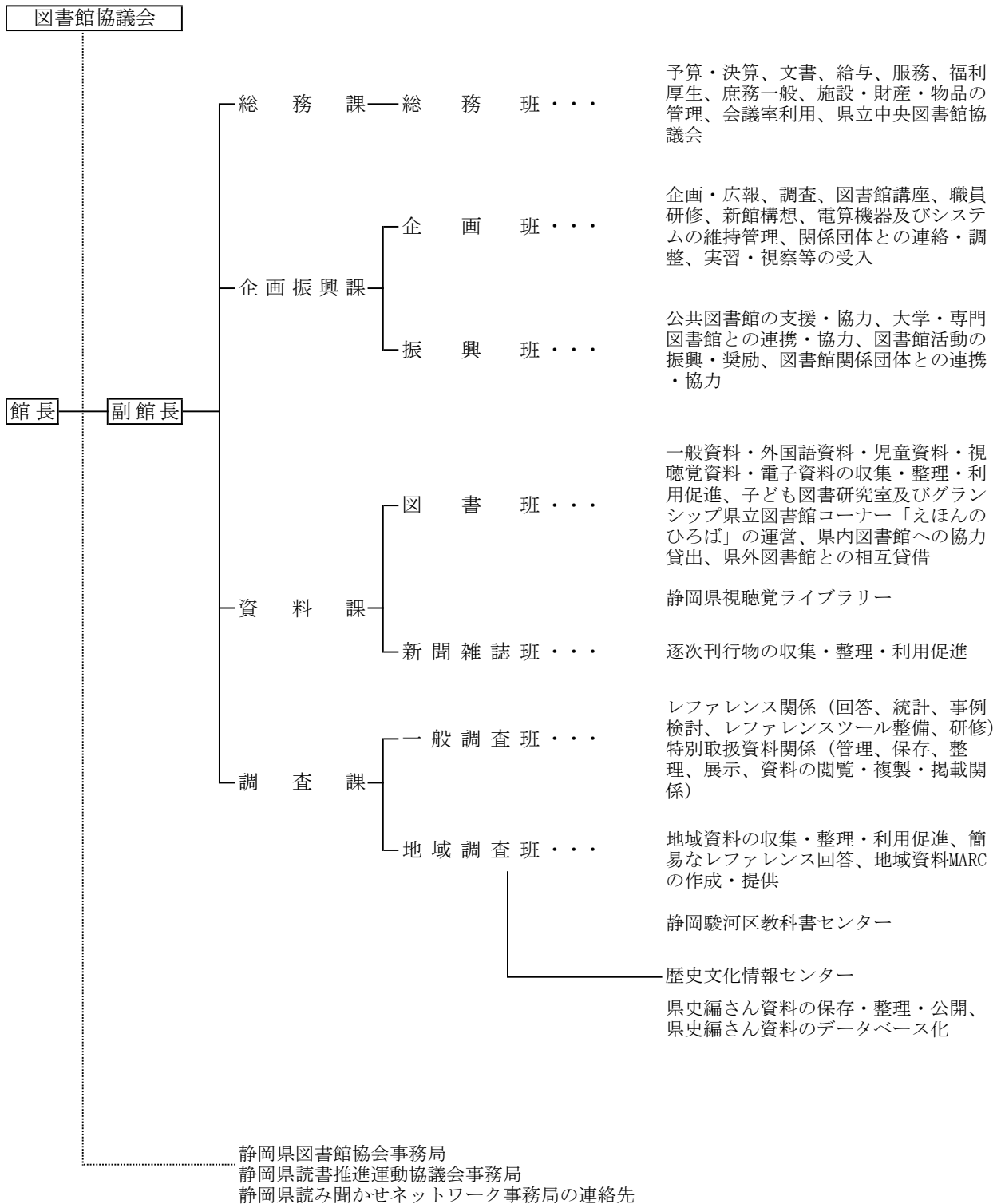
	れあ」県立図書館コーナーを開設
平成14年 5月31日	地震対策緊急整備工事完成
平成14年 6月13日	県女性総合センター「あざれあ」県立図書館コーナーを閉館
平成14年 8月 1日	静岡県立中央図書館業務を再開（地震対策緊急整備工事・特別整理終了） 葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」に移動。10月12日から同センター「図書館コーナー」で閲覧開始
平成15年 4月 1日	グランシップ内で情報ラウンジ・県立図書館コーナーが移転、グランシップ県立図書館コーナーとして再開
平成15年 7月 2日	ビジネスコーナーを設置
平成15年11月27日	平成15年度第89回全国図書館大会静岡大会開催（～28日） 大会テーマ「創めよう！図書館の世紀～知・人・夢づくり～」
平成16年 3月18日	新電算システムに移行し、「横断検索」等を開始（第3期システム稼働）
平成16年 6月18日	子ども図書研究室を開設
平成17年 4月 1日	創立80周年記念事業を年間にわたり展開
平成19年 9月18日	浙江図書館職員を静岡県海外技術研修員として受入れ（～平成20年 2月22日）
平成19年10月26日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館に関する姉妹図書館締結の意向書」を浙江図書館にて調印
平成21年 2月24日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を当館にて締結
平成21年 3月11日	静岡県立中央図書館、静岡県立美術館、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県公立大学法人静岡県立大学と4機関による「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結。21年度には2機関の参加により6機関で「ムセイオン静岡」として事業推進
平成21年 7月 1日	インフォメーション棟耐震補強工事着工。3か月間工事のための休館（～9月30日）。その後、工事及び工事に伴う関係作業のため一部開館（10月 1日～平成22年 3月30日）
平成21年 9月25日	葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」より当館に移動
平成22年 2月25日	インフォメーション棟耐震補強工事完成
平成22年 5月 1日	図書館電算システムの更新及び当館Webサイトの全面リニューアル（第4期システム稼働） 静岡県関係資料及び雑誌の名称を、郷土資料、郷土雑誌から、それぞれ地域資料、地域雑誌に変更
平成22年 6月 1日	耐震補強工事及び関連作業と電算システム更新作業をすべて終え、リニューアルオープン。 また、携帯電話からレファレンスの申込及び事例検索が可能に。 葵文庫、久能文庫等の貴重書が、事前申込みにより本館で随時閲覧可能に。
平成22年 6月	「国民読書年」関連イベントを実施（～12月）
平成22年 9月 1日	「葵文庫」所蔵資料の約半数の全文が、インターネットから閲覧可能に。
平成23年 1月 8日	貴重書常設展示コーナー設置
平成23年 2月 1日	国立国会図書館デジタルアーカイブポータル（PORTA）と連携し、当館デジタルライブラリーが、PORTAから検索可能に。
平成23年 5月	電子書籍関連プロジェクト実施（～11月）
平成23年 7月 9日	健康医療情報コーナーを新設・記念イベント開催
平成23年11月29日	平成23年度関東・甲信越静岡地区図書館地区別研修開催（～12月 2日）
平成24年 1月26日	「葵文庫」所蔵資料のインターネットの全文閲覧を1,102冊（204タイトル）追加
平成24年 2月 1日	閲覧室等空調設備工事、資料棟屋上防水工事、防火設備等改修工事非常用照明設備工事、分電盤改修工事等大規模改修工事及び特別整理のため、休館（3月15日まで）
平成24年 3月16日	閲覧室等空調設備工事等大規模改修工事完了、国立国会図書館歴史的音源サービスの提供開始
平成24年 4月 1日	子ども図書研究室の一部複本資料の個人貸出を開始
平成24年 6月	図書館講座「葵レク」開始
平成24年 6月20日	おうだんくんサーチバージョンアップ
平成24年 7月	「大人の読書」推進 大切な人に贈る1冊「県民メッセージコンテスト・ふじのくにBookダービー」開催（～9月）
平成24年 7月 7日	静岡県埋蔵文化財センター常設展示開始
平成25年 3月28日	「葵文庫」所蔵資料の全ページ電子化・公開
平成25年 4月	歴史文化情報センター「授業の種」公開

平成26年2月	富士山関係資料デジタルライブラリー公開
平成26年7月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの館内での利用を開始
平成27年4月1日	創立90周年記念事業を年間にわたり展開
平成27年6月2日	山梨県立図書館と「富士山関係資料に関する連携協定」を締結
平成27年8月	静岡県に関する行政資料の電子データ収集・デジタルライブラリーで公開
平成28年2月	閲覧室に公衆無線LAN設備導入
平成28年4月	祝日開館開始
平成28年6月	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」本格導入
平成29年7月4日	閲覧室床にひび割れが確認されたことによる臨時休館（～7月31日）8月1日以降「閲覧室の利用」以外の業務を順次再開
平成30年3月	「新県立中央図書館基本構想」策定
平成30年4月1日	「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則」を「静岡県文化センター運営に関する規則」に改正
平成30年5月7日	旧埋蔵文化財センター建物を分掌替により所管
平成31年2月15日	閲覧室床ひび割れ補修工事完了
平成31年3月14日	閲覧室の利用を再開
平成31年3月	「新県立中央図書館基本計画」策定
令和元年10月12日	台風19号接近に伴う臨時休館

2 令和2年度基本方針・事業体系



3 組織図



4 職 員

		館 長 三 科 守			
		副 館 長 殿 岡 容 子			
総 務 課	総務課長(兼)		殿 岡 容 子 (副館長)		
	総務班	総務班長	阿 部 幸 子		
		主 査	中 野 卓 哉		
		主 事	鈴 木 章 浩		
		主 事	西 川 千 聖		
	主 事	太 田 彩 花			
企 画 振 興 課	企画振興課長		森 川 景 尚		
	企画班	企画班長	高 田 和 明		
		主 査	青 木 修		
		主 事	杉 本 啓 輔		
		主 事	花 村 拓 海		
	主 査	永 井 満 美			
		振興班長代理	八 木 麻 美		
		主 査	山 田 直 美		
		教育主査	渡 邊 潤		
資 料 課	資料課長		小 松 純 代		
	図書班	図書班長	木 村 知 美		
		主 査	水 井 千 保 子		
		主 査	安 田 宏 美		
		主 任	眞 子 み な		
	技能員	加 藤 桂 子			
		新聞雑誌班長	岩 崎 紀 子		
		主 任	前 林 真 美		
		主 任	夏 目 佳 奈		
調 査 課	調査課長兼一般調査班長		中 村 都 史 彦		
	一般調査班	教育主幹	仲 村 修 也		
		主 任	増 田 曜 子		
		主 任	宮 崎 靖 子		
		主 事	飯 塚 吉 夢		
				地域調査班長代理	鈴 木 由 美
				教育主査	風 間 祥 子
		主 任	牧 田 佳 子		
		主 任	木 村 雄 二		
		(歴史文化情報センター)			
		教育主査	小 杉 敦 士		
		主 任	飯 塚 晴 夫		
		主 任	大 林 元		

5 予 算

(単位:千円)

事業名	R 2 予算額	説明(図書館が行う事業)
県立中央図書館管理運営費	99,880	・ 図書館の利用者サービスの充実を図るための経費 ・ 県立中央図書館の利用者に快適な読書環境を提供するための、施設等維持管理に要する経費
県立中央図書館資料充実費	85,000	・ 図書及び逐次刊行物の購入・製本・補修等、資料整備充実に関する経費
合 計	184,880	

6 資 料

(1) 収集基本方針

ア 一般資料

県立図書館の蔵書構成の基本となる一般図書の収集については、調査研究用の参考図書類を中心に全分野にわたり幅広く収集する。

イ 児童資料

中学生までを対象とした児童図書を全点(コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く)収集する。特に選定された児童図書は、さらに1部収集する。なお、15歳から18歳未満対象(YA)の図書についても選書及び収集に配慮する。

ウ 地域資料

県立図書館としての基本的役割である県全域の地域資料の収集については、地域の文化遺産としての歴史的資料、現在の地域社会理解のための参考資料の収集強化を図る。また、地域資料の中核となる静岡県関係の歴史、地誌、人物、民俗、文学等の一般資料や県及び各市町が刊行する地方行政資料を積極的に収集する。

エ 逐次刊行物(新聞、雑誌)

学術雑誌、業界誌、官公庁広報及び一般教養雑誌など逐次刊行物の充実に努める。地域雑誌の収集にも留意する。

オ 視聴覚資料

優れた映像や音響への要求が高まる中で、文化的、教養的内容のものを収集する。その収集については、特に静岡県及び図書館に関するもの並びに資料の芸術性、記録性、効用性を考慮する。

カ 外国語資料

県民(在住外国人を含む)の国際理解や日本理解及び生涯学習を援助し、また外国語を通しての読書及び基本的な調査研究の機会を提供する目的で収集する。

※留意事項

資料の収集に当たっては、国立国会図書館、市町立図書館及び各種関係機関との機能を考慮している。

(2) 資料概要

ア 一般資料

- ・ 総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、学術、言語、文学など各分野の図書
- ・ 各分野における辞典、便覧、年鑑、目録などの参考図書
- ・ 行政資料

イ 児童図書

- ・絵本
- ・児童書(コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く)

ウ 地域資料

- ・静岡県に関する資料
- ・静岡県出身者、在住者の著作
- ・静岡県刊行物(統計書、調査報告書など)
- ・県内自治体刊行物(要覧、統計書、例規集など)

エ 逐次刊行物(新聞・雑誌)

- ・一般紙(誌)、学会誌などの専門誌、研究機関や大学の紀要類、会社や研究所の研究技報類
- ・静岡県内発行の新聞・雑誌・広報
- ・静岡県公報、県議会議事録

オ 視聴覚資料(県視聴覚ライブラリー資料を含む)

- ・DVD ・朗読CD ・ビデオテープ ・CD-ROM ・マイクロフィルム

カ 外国語資料

- ・辞典、事典などの基本参考図書
- ・日本関連図書(日本語著作の外国語版を含む)
- ・各分野の一般図書

キ 特殊コレクション等

(ア) 特殊コレクション

資料名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概要
葵文庫	大正 13	静岡師範学校	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府の旧蔵書で、和漢書 1,261 冊、蘭・仏・英・独などの洋書 2,325 冊の 3,586 冊からなる(『江戸幕府旧蔵書目録』(葵文庫)(昭和 45 年 4 月 18 日発行)による)。 ・明治元年府中(静岡)藩成立の時、駿府城内に設けられた学問所の蔵書となり、静岡師範学校を経て当館の所蔵となり、昭和 45 年「葵文庫」と名づけられた。
久能文庫	大正 13 昭和 4 昭和 56 昭和 59	関口壮吉 関口隆克	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 代静岡県令(初代県知事)関口隆吉収集の図書・文書・記録類 835 部 2,454 冊からなる。 ・図書は徳川氏関係及び軍事・外交・農業を中心とする。 ・文書は三条実美・大久保利通・伊藤博文・勝海舟・山岡鉄舟など多数の名士書簡を含む。 ・隆吉収集の図書は、その没後、久能山東照宮に保管され、当館設立の議が決定された大正 10 年に県に「久能文庫」として寄贈された。
上村順太郎 蒐集浮世絵	昭和 11	上村五郎	<ul style="list-style-type: none"> ・上村順太郎が集めた江戸時代から明治までの浮世絵(錦絵)など版画類約 5,100 枚

(イ) 主な本県ゆかりの貴重資料

資料名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概要
山梨稲川遺稿類	昭和 2 昭和 9	田中光顕 戸塚 幸 米山梅吉	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨稲川の遺稿・書簡など 103 点からなる。

内山真龍関係文献	昭和 11	徳川家達他 7 人	・内山真龍関係の軸 6 幅と和書 2 冊 ・軸のうち遠州国学者関係書翰集 2 幅は、国学者の真龍宛書翰等 113 点を収録。
大井文庫	昭和 15	大井 博	・静岡浅間神社の神主大井家の資料約 1,600 点、神道・国学・郷土関係を中心とする。

(注) ^{やまなしとうせん}〔山梨稲川〕(1771～1826) 漢学者、詩人。明和 8 年に庵原郡西方村（現静岡市清水区）に生まれる。稲川の号は 1811 年、駿府稲川村（現静岡市駿河区）に居を移したことによる。稲川の学問の特徴は「音韻論に先鞭をつけたもの」と内藤湖南は「先哲の学問」の中で評した。また門人を中心に漢詩の結社「楽山吟社」を主宰した。

^{うちやままたつ}〔内山真龍〕(1740～1821) 国学者。元文 5 年に豊田郡大谷村（現浜松市天竜区）に生まれる。1762 年賀茂真淵に入門、真龍と称す。真龍の国学史上の功績はその研究著述のほか、遠江、三河、駿河、信濃等 135 人に及ぶ門人を教育したことにより、特に遠州国学の基礎を築いたことである。

参考文献：静岡新聞社出版局編（1991）『静岡県歴史人物事典』静岡新聞社。

Ⅱ 事業報告（令和元年度）

1 静岡県の図書館をめぐるこの1年（令和元年度）

(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き

ア 公立図書館の現状

平成31年4月1日現在、全国の自治体数1,788に対する図書館設置自治体数は、前年度から町村で5増加して1,385、設置率は77.5%である。また、図書館数は、前年度から市区立が7増加して3,284である。図書館法が制定された昭和25年から69年が経過しているが、特に町村の設置率は57%と前年と変わらず全国的にはまだ低い状況にある。指定管理者制度をめぐる現状としては、「図書館における指定管理者の導入等の調査について2019（報告）」（日本図書館協会図書館政策企画委員会）によると2017年から2018年の変化として、全国では、指定管理者から直営に変更する図書館も15館あるが、自治体数、図書館数とも増加している。三重県立図書館では新たに施設管理のみではあるが指定管理者を導入している。県内の市町立図書館は、昨年からの変化はなかった。

平成28年10月に開館した札幌市図書・情報館は、Library of the Year 2019を受賞した図書館でコンセプトに貸し出しをしない「課題解決型図書館」として調査相談・情報提供に特化している。また、札幌市図書館では日本十進分類法（NDC）を用いず、独自の分類で配架している。独自分類は、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）が運営するTSUTAYA図書館や松岡正剛氏が手掛けた近畿大学アカデミックシアター、県図書館大会に招請した太田剛氏の手掛けた幕別町図書館や雲の上の図書館（高知県梶原町）でも取り入れている。これからもNDCを採用しなかったり、NDCを採用しながらもサインを工夫したりするなど、NDCの枠にとらわれない魅力的な棚づくりを追求する図書館が増えてくると考えられる。

NDCは、新訂9版（平成7年）の刊行から19年後の平成26年12月に新訂10版が刊行された。平成29年4月には、国立国会図書館と多くの公共図書館へ書誌データを提供している（株）図書館流通センター（TRC）が、それぞれ10版を適用した書誌データ・MARCの提供を開始した。TRCはこれに併せて、新訂8版のMARC提供の移行措置期間を5年とし、その期限として令和2年末までに10版または9版へ移行するよう促しているため、令和元年度は8版を採用している館にとっては切替え等を検討する最終年となり対応に迫られた。当館も令和元年度から準備を進め、令和2年5月のシステム更新に合わせ8版から10版に切り替えた。『日本目録規則2018年版』（NCR2018）も31年ぶりの大きな改訂を行いシステム（機械）可読性を高め、柔軟な運用ができる形式になっている。システム対応や研究が進んだ1年となった。

情報技術の日進月歩の進展に伴い、図書館のサービスも変容を模索する動きがでてきている。特に若者の利用を念頭に置いた、スマートフォンをベースとした新たなサービスへの取組みが多く見られる。飯能市立図書館では、LINEで資料検索やおすすすめ本を紹介するチャットボットを夏休み限定で実証実験を行った。名古屋市立鶴舞中央図書館では、来館者の「目的の書架までたどりつけない」という声から、AR（拡張現実）技術でスマートフォンをかざすだけで書架まで案内してくれる図書館ナビゲーションの実証実験を令和2年1月まで行い、書架到着時間の短縮や案内の人手不足を解決しようとしている。鯖江市立図書館ではスマートフォンで貸出カード機能が使える「鯖図（さばと）パス」や本の場所を探せる「さばとマップ」アプリを提供している。これまでの蔵書検索のあり方や貸出カードのあり方などを改めて考える時期に来ているのではないだろうか。

イ 図書館の所管

「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」（第9次一括法）が、令和元年6月7日に公布された。この法律では、教育委員会が所管する公立の図書館、博物館、公民館その他の社会教育に関する機関について、まちづくりや観光など、他の行政分野との一体的な取組の推進等のために地方公共団体がより効果的と判断する場合には、社会教育の適切な実施の確保に関する一定の担保措置を講じた上で、条例により地方公共団体の長が所管することを可能としている。担保措置の1つとして、事務の移管に係る条例を

制定又は改廃する前に、地方公共団体の議会は教育委員会に意見を聴かなければならないこととされている（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 23 条第 2 項）こともあり、令和元年度中に図書館を首長部局に移管する動きは県内になかった。当館については、令和元年 12 月県議会定例会において「静岡県立中央図書館の所管を知事部局に移管しない」との教育長答弁があった。

ウ 平成 30 年著作権法改正、読書バリアフリー法成立・施行

「著作権法の一部を改正する法律」（改正著作権法）は、デジタル・ネットワーク技術の進展により、新たに生まれる様々な著作物の利用ニーズに的確に対応するため、著作権者の許諾を受ける必要がある行為の範囲を見直し、情報関連産業、教育、障害者、美術館等におけるアーカイブの利活用に係る著作物の利用をより円滑に行えるよう※平成 30 年 5 月 25 日に公布し、一部の規定を除き平成 31 年 1 月 1 日に施行された。これにより、図書館界では、複製物の提供やデジタル化に関する判断基準を変更することとなった。文化庁の参考資料によると「所在検索サービス（広く公衆がアクセス可能な情報の所在を検索可能にするとともに、その一部を検索結果と併せて表示するサービス）」の例示では、書籍の検索の場合、書籍のタイトルや著作名等とともに、書籍の本文（著作物）の一部表示が可能になっている。また、障害者への情報アクセス機会を充実した改正著作権法に対応すべく、（公社）日本図書館協会ほか 4 団体は、「図書館の障害者サービスにおける著作権法第 37 条第 3 項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン」の改定版を令和元年 11 月 1 日に公表した。また、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（通称「障害者差別解消法」）が平成 28 年 4 月 1 日に施行され、令和元年 6 月 21 日「視覚障害者等読書環境の整備の推進に関する法律」（通称「読書バリアフリー法」）が成立、6 月 28 日に公布、施行された。国の基本計画が令和 2 年 5 月策定に向け方針が示され、障害者サービスの環境整備が大きく動いた 1 年であった。

なお、これまでの著作権法第 35 条関係では、対面授業のための複製や同時中継の遠隔合同授業での公衆送信は、無許諾・無償で行うことができていた。一方、「その他の公衆送信」は権利者の許諾が必要となっていたため、権利処理の煩雑さから、ICT を活用した教育において教育上必要な著作物が円滑に利用できないとして著作権制度の見直しを求める声があった。今回の著作権法改正により、「その他の公衆送信」について、補償金を支払うことにより、無許可で可能とした。（「授業目的公衆送信補償金制度」）これに伴い補償金請求権を行使する管理団体として、平成 31 年 2 月に一般社団法人「授業目的公衆送信補償金等管理協会」（略称：SARTRAS^{サートラス}）が文化庁の指定管理団体として指定を受けた。SARTRAS は令和 3 年 4 月からの施行を目指し補償金等について関係団体と準備・調整を行っていたが、図書館もこの新制度の教育機関に該当するものの令和 2 年 1 月まで協議等が行われずにいた。令和 2 年 4 月 6 日、新型コロナウイルス感染症の拡大という緊急事態に、教育機関で行うオンラインでの遠隔授業等で著作物が教材として円滑に利用できるよう、令和 2 年度に限り「授業目的公衆送信補償金制度」施行のための補償金額を「無償」とする方向となった。

※「平成 30 年度著作権法の一部を改正する法律等について」 改正の趣旨より引用

エ 業務継続計画（BCP）

令和元年度は、非常時に図書館運営をどのようにしていくのかを問われた 1 年だった。5 月の皇位継承に伴う長期にわたる休日、9、10 月の台風 15 号、19 号、2 月以降の新型コロナウイルスの感染者数増加などに対して、図書館サービスや利用者の知る権利を守る使命を優先するのか、利用者や職員の安全を優先するのか、働き方改革も勘案し、これまで前例のない課題を迅速に判断し適切に対応することが求められたのではないだろうか。民間企業等は災害にあった場合どのように対応していくのかをマニュアル化した業務継続計画（BCP）の策定が進んでいる。図書館界も今年の経験をこれからの図書館運営、業務継続計画（BCP）や危機管理マニュアル等への反

映や策定に活かしていく必要があるだろう。

(7) 令和元年房総半島台風（台風15号）

静岡県内への上陸はなかったが、この台風により千葉県全域が停電や通信回線の不通、断水、鉄道の運行見合わせ等の被害にあわれる状態が数日続いた。停電中多くの図書館は休館していたが、停電している中、開館する図書館もあった。また、千葉県内の半数程度の図書館では被災者のために図書館施設を一部開放したり、携帯電話の充電ができるようにしたりしていた。

なお、下田市立大賀茂小学校学校図書館の被害に対して、日本図書館協会図書館災害対策委員会が助成を決定していただき、復旧への大きな支援となった。

(4) 令和元年東日本台風（台風19号）

令和元年10月6日に発生した台風19号は、10月12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸し、静岡県や新潟県、関東甲信越地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨と強い風をもたらした。図書館では、13都県86公立図書館と14大学図書館に被害が及んだ。地下書庫を有していた図書館では、地下階に水が浸水し書庫が水没する被害もあった。福島県、埼玉県、千葉県では10月11日～13日の間に避難先となった図書館もあった。

この台風19号は、昭和33年に静岡県東部の狩野川流域で特に甚大な被害があった狩野川台風と匹敵する災害が発生する恐れがあると気象庁から発表され、県内ではJRや私鉄各社が電車を計画運休し、商業施設は軒並み臨時休業した。このような事情もあり、10月12日は県内全ての図書館で終日又は正午から臨時休館の措置が取られた。12日夜から13日未明にかけて台風が最接近し大雨特別警報が県内で初めて発令され、河川の氾濫や暴風による被害があった。しかし、県内図書館では雨漏りや停電、電話の不通が発生したものの幸いにして大きな被害はなかった。また、これらの影響は10月16日までに解消した。

(4) 新型コロナウイルス感染症

令和元年12月に中国湖北省武漢市で最初の症例が確認され、拡大していった新型コロナウイルス感染症は、日本でも1月中旬に国内で初めての感染者が確認されてから2月にかけて徐々に増加していき、安倍総理大臣は2月29日に記者会見を行い3月2日から3月19日までの小中高校の一斉休校の要請を行った。一斉休校を受け、イベントの中止や学習室の閉鎖の措置をとる図書館が多く見られた。図書館のサービス面では、全面休館、休館するが予約貸出は行う館、長期滞在を避けるため閲覧できるが閲覧席を設けない館、子どもの居場所や知る権利を守るためそのままサービスを提供する館など、各地域の実情に合わせた対応が見られた。外出制限要請により自宅に居ながら活用できるということで、大手出版社などは子どもが楽しめる漫画など電子書籍や学習教材の無料公開を開始した。また、図書館で提供する電子図書館利用の価値も見直された。期間限定ではあるが、電子図書館配信会社や出版社の協力でコンテンツの一部無償提供やライセンス上限を撤廃する対応も行われた。熱海市立図書館は、電子書籍の普及を図るためこの機に、朝読書に電子書籍活用するなどの取組みも見られた。政府は、令和2年4月7日、緊急事態宣言を1都1府5県に発令した。これを受け発令区域の都府県立図書館では、予約貸出のみ行っていた館まで全面休館することとなった。

(2) 静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組

静岡県は、東静岡地区に「文化力の拠点」を形成するため、平成27年3月に「ふじのくに」の『文化力』を活かした地域づくり基本構想を、平成28年8月に「東静岡駅南口県有地『文化力の拠点』基本計画（案）」を策定した。この時点では、県立中央図書館は本館を維持しつつ機能分化し「文化力の拠点」内の一部機能を新設する計画でいた。その後、平成29年6月に県立中央図書館の閲覧室床にひび割れが確認され、継続使用には大きな課題があることが判明したことから、平成29年9月県議会定例会で、知事答弁において「文化力の拠点」内に県立中央図書館を全館移転整備とする方針が示された。教育委員会では、「新県立中央図書館整備の検討に関する有識者会

議」開催するなどし、平成30年3月に、『文化力の拠点』施設における新県立中央図書館基本構想」を策定した。平成30年度、県教育委員会は、文化力の拠点施設内に整備する予定の新県立中央図書館基本計画に関する「新県立中央図書館整備の検討に関する有識者会議」を10月23日と平成31年3月7日に開催、また、平成30年12月18日から平成31年1月15日まで、計画案についてパブリックコメントを実施し、294件（75人1団体）から意見が寄せられた。これは平成29年度に実施された県のパブリックコメントの平均意見数19.5件を大きく超えるもので、県民の関心の高さが示された。平成31年3月に、『文化力の拠点』施設における新県立中央図書館基本計画」を策定した。

県教育委員会は、令和元年度に、『文化力の拠点』施設における新県立中央図書館管理運営計画支援業務委託」をアカデミック・リソース・ガイド株式会社（ARG）と結び、Society5.0を踏まえた「20XX年の社会環境・情報環境を描く」をテーマにするなど社会教育課と当館との合同ワークショップを開催した。館内では館内検討ワーキングを設置し、「新県立中央図書館管理運営計画」や文化・観光部で進めている整備案に対応する要求水準書の検討を行った。令和2年3月に「新県立中央図書館管理運営計画」の原案が完成した。

一方、文化力の拠点施設整備では、「文化力の拠点」の事業スキームを構築するために「文化力の拠点」の形成に向けた事業計画案公募（プレ公募）を平成31年3月から5月に実施し、応募のあった提案事業者と協議を重ねたが合意には至らなかった。このため、令和元年12月県議会定例会にて、図書館を中心とした魅力ある第1期整備を県が主体となって行うことにより、図書館の早期移転と高い集客を実現し、民間による第2期整備につなげていくとの方針を示したが議会からの理解が得られなかった。また、令和2年度当初予算に「県立中央図書館を中心とした文化力の拠点整備」の基本・実施設計費の計上を予定していたが、県議会の慎重な検討を求める意見を踏まえて見送ることとなり、JR東静岡南口の県有地整備は県立中央図書館の単独整備とすることに方針転換された。この結果、令和2年度予算としては、基本・実施設計費は見送られたが、移転整備のための地質調査費については可決した。

令和2年度の組織改編では、文化・観光部文化力の拠点推進課を廃止し、県立中央図書館の整備に関する業務を教育部社会教育課に移管することとなった。今後、「文化力の拠点」施設の整備を前提としている『文化力の拠点』施設における新県立中央図書館基本計画」を図書館単独整備として見直すとともに、整備の具体的な内容を盛り込んだ新たな「新県立中央図書館基本計画」を策定する予定である。

(3) 県内市町の新図書館設置の動き

ア 市町立図書館数の推移（各年度4月1日現在）

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
市立図書館（本館）	23	23	23	23	23
同（分館）	60	60	60	59	59
町立図書館	11	11	11	11	11
合 計	94	94	94	93	93

※静岡県図書館協会加盟館数は、県立1、市町立94、町立図書室1、大学・専門31、合計127館（分館を含む）

イ 新図書館設置の動き

伊豆市立天城図書館は、天城湯ヶ島市民活動センター内に平成31年4月1日に移転開館した。旧湯ヶ島小学校を改修した施設で、井上靖資料室も併設されており、井上靖氏の作品を中心に、文学や郷土資料を充実させている。

清水町立図書館は、令和2年2月20日に新図書館と保健センターとの複合施設が竣工した。令和2年7月の開館を目指し、準備を進めている。

御殿場市は6月14日の市議会定例会において市民交流センター「ふじざくら」周辺に図書館を移転することを明らかにし、市民や職員などによる懇話会で検討を進めている。

牧之原市立図書館は、「牧之原市立図書館基本計画」のパブリックコメントを7月1日から31日の間実施し、8月に策定した。また、民間施設を活用し図書館の整備を行う計画が進められており、令和3年4月の開館を見込んでいる。

伊東市長は10月28日の定例記者会見で伊東マングリン岡本ホテル跡地に新図書館を、伊豆急行伊豆高原駅にサテライト型図書館を建設することを表明した。

(4) 静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催

ア 第27回静岡県図書館大会

11月18日、静岡県コンベンションアーツセンター“グランシップ”において953人の参加者を集めて大会が開催された。午前の全体会では「ソーシャル・イノベーションを巻き起こす図書館へ」をテーマに太田剛氏の講演、林左和子氏との対談が、午後は6つの分科会が行われた。(p53参照)

県単位の図書館大会としては全国でも最大クラスの本大会は、規模だけでなく内容においても大変充実したものであり、学校図書館や県外の参加者も多い。本県の図書館協会は、長年、県と市町・大学専門図書館とが連携協力した事業運営がなされている。本大会も市町立図書館や大学専門図書館、学校関係者や読書関係団体を含めた委員によって企画運営されており、このような協同作業が、本県の図書館界や読書活動を支える大きな力となっている。

イ 読書関係団体の実施事業

静岡県読み聞かせネットワークは、9月8日に静岡県立中央図書館において、画家の降矢なな氏を講師に全体講演会「絵本のこと。絵を描くこと。」を、静岡県読書推進協議会との共催で開催した。

静岡県読書推進運動協議会は、静岡県図書館大会第3分科会を共催事業として実施したほか、夏休み子ども読書ウィークの「谷田山親子自然観察講座」及び「ユニバーサルデザイン絵本手作り教室」について、協賛事業として開催した。

2 利用状況統計

(1) 県立中央図書館利用状況

令和元年度 開館日数・入館者数・新規登録者数・貸出人数・貸出数

上段：本館 下段：グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」

年・月	開館 日数	入館者数		新規 登録者数	貸出人数	貸出数			合計
		人数	一日平均			図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚(点)	
31・4	26	11,934	459	153	1,568	6,905	875	333	8,113
	25	786	31	13	151	1,168	8	9	1,185
1・5	28	14,351	513	169	1,579	6,226	819	405	7,450
	26	2,320	89	20	165	1,202	14	4	1,220
1・6	26	12,828	493	174	1,525	6,171	874	287	7,332
	25	834	33	11	173	1,280	14	3	1,297
1・7	27	13,831	512	160	1,599	6,427	803	386	7,616
	27	814	30	9	188	1,428	16	3	1,447
1・8	28	17,640	630	239	1,814	7,383	661	426	8,470
	27	982	36	10	156	1,266	12	0	1,278
1・9	27	14,581	540	122	1,563	6,337	808	357	7,502
	26	856	33	16	171	1,294	14	7	1,315
1・10	27	14,444	535	147	1,630	6,608	774	336	7,718
	25	752	30	9	162	1,328	47	8	1,383
1・11	27	13,867	514	135	1,643	6,830	799	352	7,981
	22	907	41	25	164	1,325	34	0	1,359
1・12	25	10,502	420	110	1,502	6,404	702	237	7,343
	26	839	32	18	170	1,364	17	10	1,391
2・1	14	6,843	489	69	1,028	5,234	582	223	6,039
	22	609	28	6	126	1,011	11	0	1,022
2・2	26	13,124	505	124	1,754	7,942	871	436	9,249
	25	742	30	10	170	1,438	20	0	1,458
2・3	27	12,366	458	102	1,520	6,452	869	420	7,741
	28	540	19	6	160	1,419	14	0	1,433
小計	308	156,311	508	1,704	18,725	78,919	9,437	4,198	92,554
	304	10,981	36	153	1,956	15,523	221	44	15,788
合計		167,292		1,857	20,681	94,442	9,658	4,242	108,342

令和元年度末有効登録者数 78,072

30年度 小計	304	121,340	399	1,116	9,750	40,466	3,974	944	45,384
	310	12,859	41	189	2,406	17,190	140	41	17,371
合計		134,199		1,305	12,156	57,656	4,114	985	62,755

平成30年度末有効登録者数 76,215

※貸出人数、貸出数には継続貸出を含む。また、Webからの継続貸出数はすべて本館にカウントする。
 ※本館は閲覧室安全対策のため、平成29年7月4日から平成31年3月13日まで閲覧室を閉室していた。

(2) 協力貸出

(単位：点)

年・月		31 ・ 4	1 ・ 5	6	7	8	9	10	11	12	2 ・ 1	2	3	合計
市立 図書館	図 書	311	402	361	427	375	357	403	367	320	422	512	441	4,698
	雑 誌	21	59	55	35	30	40	36	39	24	39	49	51	478
	視 聴 覚	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
町立 図書館	図 書	54	67	83	55	49	78	66	54	68	61	54	62	751
	雑 誌	1	1	4	1	1	4	3	1	3	3	1	4	27
	視 聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学・専門 図書館	図 書	63	234	56	80	155	56	51	46	48	33	10	11	843
	雑 誌	8	2	2	9	8	4	11	20	4	2	1	1	72
	視 聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	図 書	428	703	500	562	579	491	520	467	436	516	576	514	6,292
	雑 誌	30	62	61	45	39	48	50	60	31	44	51	56	577
	視 聴 覚	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
総計		458	766	561	607	618	539	570	527	467	560	628	570	6,871

※町立図書館には条例未設置町の図書室を含む。

(3) レファレンス

(単位：件)

年・月		31 ・ 4	1 ・ 5	6	7	8	9	10	11	12	2 ・ 1	2	3	合計
書誌・文献・事実調査		218	220	168	171	248	225	217	208	230	114	218	151	2,388
(静岡県関係)		49	63	63	47	87	74	52	52	65	33	51	56	692
所蔵・所在調査		118	160	189	203	135	168	142	116	155	88	181	138	1,793
(静岡県関係)		26	22	39	53	42	38	51	27	22	28	37	36	421
合 計		336	380	357	374	383	393	359	324	385	202	399	289	4,181
(静岡県関係)		75	85	102	100	129	112	103	79	87	61	88	92	1,113

(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況

(単位：点)

区分 \ 年・月	31 ・ 4	1 ・ 5	6	7	8	9	10	11	12	2 ・ 1	2	3	合計
16mmフィルム	10	6	0	12	0	6	0	6	0	6	0	0	46
ビデオテープ	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
DVD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	6	0	12	0	6	3	6	0	6	0	0	49

(5) 歴史文化情報センター利用状況

(単位：人、件)

年・月	31 ・ 4	1 ・ 5	6	7	8	9	10	11	12	2 ・ 1	2	3	合計
入室者数	20	12	9	13	14	21	15	29	18	13	14	23	201
資料利用件数	15	11	6	14	7	25	12	33	24	14	10	29	200
資料掲載等許可件数	5	3	2	3	3	4	5	3	2	4	3	3	40
レファレンス件数	15	17	13	20	15	15	14	17	13	20	16	20	195

3 図書館資料充実状況

(1) 図書資料

(単位：冊)

分類	平成30年度 末蔵書数	令和元年度中増減				令和元年度末蔵書数		
		受入数	払出数	類換数	増減数	蔵書数	比率(%)	
一般資料	0 総記	57,756	1,441	14	0	1,427	59,183	6.8%
	1 哲学	31,924	553	0	0	553	32,477	3.7%
	2 歴史	60,089	965	4	1	962	61,051	7.0%
	3 社会科学	149,160	2,823	1675	1	1,149	150,309	17.2%
	4 自然科学	50,007	1,302	19	0	1,283	51,290	5.9%
	5 技術	53,576	1,065	5	△ 1	1,059	54,635	6.3%
	6 産業	38,480	805	4	0	801	39,281	4.5%
	7 芸術	40,432	1,044	10	0	1,034	41,466	4.8%
	8 言語	12,729	280	7	0	273	13,002	1.5%
	9 文学	59,881	798	4	0	794	60,675	7.0%
	小計	554,034	11,076	1,742	1	9,335	563,369	64.6%
児童資料	児童日本語	98,249	4,149	16	△ 1	4,132	102,381	11.7%
	児童外国語	988	64	0	0	64	1,052	0.1%
	小計	99,237	4,213	16	△ 1	4,196	103,433	11.8%
K	旧分類資料	40,677	0	0	0	0	40,677	4.7%
S	地域資料	143,771	3,141	8	0	3,133	146,904	16.8%
G	外国語資料	11,794	119	0	0	119	11,913	1.4%
特別集書	葵文庫	3,586	0	0	0	0	3,586	0.4%
	葵文庫複製本	225	0	0	0	0	225	0.0%
	久能文庫	2,455	0	0	0	0	2,455	0.3%
	合計	855,779	18,549	1,766	0	16,783	872,562	100.0%

※比率(%)の小計及び合計は、端数処理のため合わないことがある。

〈受入数の内訳〉

(単位：冊)

区分	購入	寄贈	分類換	区分換	管理換	合計
一般資料	10,198	878	0	0	0	11,076
児童資料	4,144	69	0	0	0	4,213
地域資料	949	1,738	454	0	0	3,141
外国語資料	76	43	0	0	0	119
合計	15,367	2,728	454	0	0	18,549

※平成26年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等

(単位：点)

区 分	平成30年度末 所蔵数	令和元年度受入数						令和元年度末 所蔵数	
		購入	寄贈	分類換	払出	類換	合計		
視聴覚資料	4,063	56	43	0	70	0	29	4,092	
内 訳	ビデオテープ	1,819	0	0	0	0	0	1,819	
	DVD	1,896	53	39	0	68	0	1,920	
	朗読CD	348	3	4	0	2	0	353	
電子資料	915	3	0	100	0	0	103	1,018	
内 訳	一般	176	3	0	0	0	3	179	
	新聞雑誌	6	0	0	83	0	83	89	
	地域資料	523	0	0	17	0	17	540	
	貴重書	210	0	0	0	0	0	210	
小計	4,978	59	43	100	70	0	132	5,110	
マイクロフィルム	9,969	113	0	0	659	0	△546	9,423	
内 訳	新聞雑誌	9,965	113	0	0	659	0	△546	9,419
	地域資料	4	0	0	0	0	0	4	
合計	14,947	172	43	100	729	0	△414	14,533	

※平成26年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

〈除籍数の内訳〉

(単位：点)

区分	内訳	点数	除籍理由
一般資料	所在不明資料	108	所在不明であるため
児童一般	所在不明資料	7	所在不明であるため
児童絵本	所在不明資料	9	所在不明であるため
地域資料	所在不明資料	8	所在不明であるため
視聴覚資料	所在不明資料	70	所在不明であるため
一般資料	価値減少資料	1,634	資料の内容について、当該資料以外にも電子資料等他の媒体で情報が得られるもの
マイクロフィルム	汚破損マイクロフィルム	659	閲覧不能であるため
合計		2,495	

(3) 逐次刊行物 (新聞・雑誌)

(単位：タイトル)

総タイトル数			左記のうち令和元年度継続受入タイトル数								
			購入			寄贈			合計		
雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
9,766	45	9,811	586	17	603	1,394	20	1,414	1,980	37	2,017

※内訳はp30参照。

4 図書班

(1) 図書資料の充実

県立図書館として必要な資料の選定は全職員で定期的に行い、速やかに発注し、受け入れた。

一般資料については、資料課・調査課・企画振興課の全職員を0・1類、2類、3類、4・5類、6・7類、8・9類の類別担当に割り振り、それぞれ選書を実施し、類別代表者による選書会議を週1回行い、発注、受入業務の効率化に努めた。令和元年度の一般資料受入冊数は11,076冊で、購入資料の平均単価は約4,173円（前年度は約3,886円）であった。受入冊数は前年度より521冊多くなった。

児童資料については、全点購入（コミック、ゲーム攻略本及び学習参考書を除く）の継続と、「えほんのひろば」配架用の絵本や貸出用大型絵本などの複本を56冊購入した。児童資料の受入冊数は4,213冊（日本語4,149冊、外国語64冊）で、購入資料の平均単価は、児童日本語は1,620円、児童外国語は3,668円であった。また、外国語の復刻版2シリーズ60冊が寄贈され受け入れた。

外国語資料は119冊を受け入れた。言語別の受入冊数は、英語84冊、中国語30冊、フランス語5冊である。購入の主な内訳は、海外の文学賞受賞作や日本語にも翻訳された原書等である。中国語資料は、当館と友好提携を結んでいる浙江図書館からの交換資料である。

(2) 視聴覚資料の充実

視聴覚資料は99点を受け入れた。購入資料は、継続的に収集しているシリーズの追加や欠巻補充したほか、防災関係や職員研修、LGBT関連の資料などを受け入れた。

(3) 図書館利用状況

令和元年度は、平成31年3月に本館の閲覧室が再開し、2年ぶりに1年を通じた通常開館となった。

ア 入館者数

令和元年度の本館入館者数は156,311人、グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」の入館者数は10,981人で、両者を併せた総入館者数は167,292人と、前年度と比較して33,093人の増加となったが、閲覧室床のひび割れによる臨時休館以前の状況には戻っていない。

イ 登録者数

令和元年度の本館新規登録者数は1,704人、「えほんのひろば」は153人であった。両者を併せた合計は1,857人で、前年度と比較して、552人の増加となった。

ウ 貸出状況

令和元年度の個人利用者への貸出点数は、p18の表のとおりである。

本館での貸出状況は、前年度と比較して、人数では8,975人、点数では47,170点増加した。

「えほんのひろば」では、前年度と比較して、人数では450人減少、点数では1,583点減少した。

(4) 予約・リクエスト・相互貸借（含協力貸出）

ア 予約・リクエストの状況

予約点数は15,462点（前年度15,935点）で、そのうちWeb予約は14,863点（前年度15,385点）と全体の9割以上を占めている。

令和元年度 予約・リクエスト受付数

	予 約	借 受	購 入
図書・雑誌	15,271冊 (14,709冊)	296冊	83冊
視 聴 覚	191点 (154点)	0点	0点
合計	15,462 (14,863) 冊/点	296冊	83冊/0点

※予約の（ ）内は、Web予約の数

イ 相互貸借状況

県内市町立図書館への協力貸出は、6,871冊（前年度6,005冊）と増加した。市町立図書館等受取サービスが増加しているなかで、例年以上の提供ができた。

県外図書館への貸出は、316件424冊（前年度254件403冊）と増加した。地域資料や専門書の依頼が多かった。

公共機関貸出については、1件100冊（前年度4件127冊）であった。

県内外の図書館からの借受は、270件295冊（前年度196件237冊）と増加、国立国会図書館からの借受は1件1冊（前年度1件1冊）であった。

令和元年度 相互貸借件数／冊数

	貸 出	借 受
国立国会図書館	—	1件／1冊
県外図書館	316件／424冊	75件／100冊
県内市町立図書館等	(協力貸出) 6,871冊・点 図書・雑誌 6,869冊 視聴覚資料 2点	195件／195冊
県内公共機関等	1件／100冊	—

(5) 子ども図書研究室

当館では、平成13年度から児童書の収集を始め、平成15年度から児童書全点収集（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書等を除く）をしている。子ども図書研究室は、子どもの読書活動推進のために、市町立図書館や児童書研究者等へのサービス支援を目的として平成16年6月18日に開室し、現在に至っている。平成24年度にリニューアルオープンし、一部複本資料の直接貸出を開始した。

前年度に引き続き令和元年度も、期間限定で日曜日に子ども図書研究室の一部を15歳以下の子どもにも開放した。対応職員は2人、18回の実施で、408人の入室があった。

ア 収集状況

児童書蔵書数 103,433冊（令和2年3月31日現在）

イ 利用状況

年度	開室日数	入室者総数	火・水・木・金 (担当者在室)	土・日 (不在)	月 (不在)
平成30年度	304日	1,584人	774人	780人	30人
令和元年度	308日	1,534人	852人	646人	36人

ウ 利用内容

- ・学校関係者：大型絵本の貸出、学校図書館での資料購入のための選書等。
- ・図書館関係者：大型絵本の貸出、仕掛け絵本購入のための選書、新刊書の内容確認、見学等。
- ・その他：所蔵資料を利用した自主的な勉強会、資料展示のための相談、おはなし会等で使用する資料の選書、新刊書の検討等。

※個人の利用者に対しては継続してアンケートを行い、利用動向の把握に努めている。

エ 子ども図書研究室講演会

子どもと本を結びつける活動をしている人たちを支援するために、学校図書館関係者、公立図書館職員、教員、ボランティア等から一般県民（中学生を除く15歳以上）までを対象として、年1回講演会を実施している。

令和元年度は、落合美知子氏を講師に迎え、「ことばを育むわらべうた」と題して、子どもへの声かけやことばの獲得の大切さについて、わらべうたの実演を交えながらお話しいただいた。

日 時	7月9日(火) 13:00~15:00
会 場	静岡県立美術館 講堂
講 師	落合美知子 氏
参加人数	214人

オ 新刊児童図書巡回展示研修会

『静岡県子ども読書活動推進計画(第三次計画)』に基づき、県内市町立図書館及び学校図書館を支援し、児童資料の充実及び選書に携わる職員の資質向上を図るため、研修会を実施している。当館が全点購入している新刊児童図書のうち約1,000冊を研修会場で現物展示するとともに、選書に関する研修を行い、参加者からの資料相談に応じた。

令和元年度は西部地区(主に学校図書館向け)と東部地区(主に公共図書館向け)の2か所で開催した。

期日	11月6日(水)	11月8日(金)
会場	掛川市立中央図書館	沼津市立図書館
参加者	31人	38人

日程

時間	11/6(水)	11/8(金)
13:00~13:30	新刊児童図書紹介(当館職員)	
13:30~14:45	学校図書館の役割・資料の選定について 講師：仲本由加氏 県総合教育センター主査 掛川市学校図書館支援室の取り組み 講師：平井幸子氏 掛川市学校図書館支援室司書	新刊児童図書の選書について—公共図書館の視点から— 講師：松本なお子氏 ストーリーテラー・大学非常勤講師・元浜松市立中央図書館長
15:00~16:00	新刊児童図書の閲覧及び資料相談等(助言者：各日講師、当館職員)	

カ 子ども図書研究室だより No.91(R1.6)~No.94(R2.3)発行

配布先：県内市町教育委員会、県内小中高等学校、県内市町立図書館、県教育機関(三ヶ日青年の家等)、図書館協議会委員、読み聞かせネットワーク役員他

キ テーマ絵本貸出

「えほんのひろば」にある絵本の利用促進を目的とし、県内市町立図書館及び県内学校図書館等に対し、テーマ別に組んだ絵本の貸出しを、平成23年7月より実施している。イベント等での展示や貸出しなど、実際に子どもが手にとって利用することを想定した、テーマ別のセット単位での貸出しである。1セットは20冊とし、各セットの絵本は重複しないようにしている。具体的なテーマは、現在22ある。(読み継がれてきた絵本、食べもの、お菓子、日本の昔話、世界の昔話、グリム、犬、猫、ねずみ、くま、虫、夜、月、友だち、兄弟姉妹、誕生日、山、遊び、おえかき、音楽、服、字のない絵本)

令和元年度の利用実績はなかった。

ク 視察・見学等

見学日	団体名	参加人数
令和元年12月20日	東京都立多摩図書館	1人
令和2年2月7日	山梨県立図書館	1人

ケ 講師派遣事業

県内各市町立図書館及び学校図書館等における児童図書資料に関わる研修に、県立中央図書館の児童サ

ービス担当職員を講師として派遣する事業を平成30年度から試行的に開始した。2年目となる令和元年度は本格的に実施し、昨年度以上の実績を上げることができた。

令和元年度実績 9団体 252人受講

	団体名	実施日	人数	内容
1	静岡市立中央図書館 児童サービス担当	7月18日(木)	14	小学校低学年から中学年への読書案内
2	熱海市立教育研究会図書館部	7月26日(金)	12	小学校高学年から中学生への読書案内
3	湖西市立中央図書館ボランティア、市内幼稚園教諭、幼稚園・学校ボランティア	7月31日(水)	20	読み聞かせ入門
4	静岡聴覚特別支援学校教職員	8月6日(火)	28	読み聞かせ入門
5	袋井特別支援学校	8月8日(木)	5	読み聞かせ入門
6	浜松市立小中学校に勤務する学校図書館補助員	9月10日(火)	100	子ども図書研究室活用案内
7	焼津市教育委員会 学校司書研修会	10月18日(金)	22	小学校高学年から中学生への読書案内
8	三島市立図書館	12月4日(水)	24	小学校高学年から中学生への読書案内
9	函南町立図書館職員及びボランティア	2月20日(木)	27	ブックトーク入門

コ 新刊サロン

子どもの読書活動関係者に情報交換、交流の場を提供するため、職員が新刊児童図書の紹介をし、参加者が自由に語り合う会を平成24年度から、偶数月第三水曜日(12月のみ土曜日)の午前中に開催している。令和元年度は平成30年度に引き続き、市の職員研修の一環としてマイクロバスで来館し参加した団体もあった。

回次	1	2	3	4	5	合計
実施日	6/19	8/21	10/16	12/14	2/19	
参加者	4人	15人	18人	11人	6人	54人

サ 団体利用

県内小中学校、幼稚園、保育所、ボランティアグループ等の団体からの予約を受け付け、全点収集資料を利用して行う選書会等の会場として提供している。

利用団体数	12団体
利用人数	228人

シ 選定図書リストの公開

平成29年度から子ども図書研究室で受け入れた全点収集児童書のうち、職員が選定した図書のリストをウェブサイトで公開を始めた。子どもと本をつなぐ活動をしている方々の選書に役立てていただくことを目的としている。令和元年度は15回276冊を選定図書として公開した。

ス その他

- ・静岡県私立幼稚園振興協会初任者研修会 講師担当
- ・県・市町子どもの読書活動推進担当者連絡会・研修会出席
- ・静岡県子ども読書アドバイザー養成講座企画認定委員会兼静岡県における子どもの読書活動推進検討委員会出席
- ・静岡県子ども読書アドバイザー養成講座企画認定委員会委員として出席

(6) グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」

「えほんのひろば」は、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップの2階に位置し、絵本を約5,000冊配架している。平成15年4月のオープンから17年経過した現在では、絵本のコーナーとして定着している。「展示コーナー」では、季節の行事やグランシップのイベントに合わせたテーマで展示を行うとともに、絵本架を利用して、簡易展示も実施している。著名な絵本作家が亡くなられた際には、随時、追悼展示を行なっている。

おはなしかいは、毎週火・木曜日、第3日曜日の午前10時30分からと木曜日午後3時から行っている。火曜日の午前は0～1歳に、その他の時間帯は2～3歳に、それぞれの対象年齢層を想定して行っている。不定期には、ボランティアグループによる絵本の読み聞かせと歌や楽器演奏を行う「おはなしかいスペシャル」を開催した。令和2年3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、おはなしかいを中止した。

ゴールデンウィーク（5月3～6日）には、グランシップで行われた企画事業「こどものくに～ハロー！みらいくん～」に合わせて、「みらいの絵本」の展示を行った。また、「みらいのじぶんをそうぞうしてみよう」のテーマで、期間中にえほんのひろばに来た子どもたちに、人型に切った紙に顔を書いたり色を塗ってもらったりしてみらいの自分の姿を作ってもらう参加型のイベントも実施した。

ア おはなしかい活動実績（平成31年4月～令和2年3月）

活動日	回数	参加者人数		備考
		総数	1回平均	
毎週火曜日10:30～	31	547人	17.6人	非常勤職員が実施
毎週木曜日10:30～	30	247人	8.2人	3つのボランティアグループが交代で実施
毎週木曜日15:00～	35	142人	4.1人	本館職員が実施
第3日曜日10:30～	9	88人	9.8人	1つのボランティアグループが実施
その他 (5/25、8/3、10/15 12/21)	4	112人	28人	<おはなしかいスペシャル> ボランティアの1グループによる絵本の読み聞かせ、歌、芝居など

イ 展示一覧

	テーマ展示	簡易展示
4月	ともだちの絵本	はるのえほん
5月	みらいの絵本／のりものの絵本	おかあさんのえほん
6月	のりものの絵本／海の絵本	おとうさんのえほん／あめのえほん
7月	海の絵本／知識の絵本	あめのえほん／たなばたのえほん／なつのえほん
8月	知識の絵本／字のない絵本	なつのえほん
9月	字のない絵本／おじいちゃんおばあちゃんの絵本	よるのえほん／おつきさまのえほん
10月	食べものの絵本	おつきさまのえほん
11月	食べものの絵本／クリスマスの絵本	あきのえほん
12月	クリスマスの絵本／ネズミと十二支の絵本	クリスマスのえほん／おしょうがつのえほん
1月	ネズミと十二支の絵本／鬼と豆の絵本	おしょうがつのえほん／ふゆのえほん
2月	鬼と豆の絵本／花の絵本	ふゆのえほん
3月	花の絵本	はるのえほん

(7) 静岡県視聴覚ライブラリー

令和元年度の視聴覚資料の受入数は0点であり、内訳は表のとおりである。

ア 資料所蔵数

(単位：点)

	平成30年度末 所蔵数	令和元年度受入数			令和元年度末 所蔵数
		購入	寄贈	合計	
16ミリフィルム	1,466	0	0	0	1,466
ビデオテープ	3,333	0	0	0	3,333
D V D	72	0	0	0	72
その他※	295	0	0	0	295
合計	5,166	0	0	0	5,166

※その他 (スライド・8ミリフィルム・カセットテープ等)

イ 貸出数

	社会教育関係	学校教育関係	合計
16ミリフィルム	42 点	4 点	46 点
ビデオテープ	3 点	0 点	3 点
D V D	0 点	0 点	0 点
その他	0 点	0 点	0 点
合計	45 点	4 点	49 点

(8) 展示他

ア 特集展示

隣接する美術館の展覧会テーマや当館での実施行事等にあわせて展示をした。

展示期間	テーマ
平成31年 3月14日～4月14日	静岡県立中央・山梨県立図書館富士山関係資料連携展示 みるのぼるくらす富士山
平成31年 4月16日～令和元年 5月9日	屏風爛漫 (静岡県立美術館企画展)
令和元年 5月10日～6月12日	古代アンデス文明展 (静岡県立美術館企画展)
6月13日～7月10日	太宰治 生誕110年
7月11日～7月30日	メアリー・エインズワース浮世絵コレクション (静岡市立美術館企画展)
8月1日～8月29日	熊谷守一展 (静岡県立美術館企画展)
8月31日～9月29日	ラグビーワールドカップ関連展示 「ラグビー」、「コミュニケーション」
10月1日～10月20日	鉄道 (法務文書課連携展示に合わせて)
10月22日～11月19日	古代への情熱 (静岡県立美術館企画展)
11月20日～12月27日	大絶滅 (静岡県地球環境史ミュージアム企画展)
令和2年 1月5日～1月19日	西洋の風景画 (静岡県立美術館収蔵品展)
2月1日～4月17日	静岡県立中央図書館・山梨県立図書館連携展示 もっと知りたい山梨県 富士山の向こうに

イ 時事的な展示

展 示 期 間	テ ー マ
平成31年 4 月 3 日～4月27日	令和
平成31年 4 月 29日～令和元年 5 月 29日	人権・差別・いじめ
6 月 12日～7 月 4 日	追悼・田辺聖子
7 月 2 日～7 月 22日	夏を快適に
7 月 23日～8 月 13日	政治と選挙を考える
8 月 14日～8 月 29日	飲み物あれこれ
9 月 3 日～9 月 14日	異常気象と防災
9 月 15日～9 月 24日	追悼・池内紀
9 月 25日～10月 15日	消費税率改定!!節約術
10月 16日～10月 30日	どうなる?欧州連合
10月 21日～11月 4 日	ノーベル化学賞受賞 吉野彰氏
11月 6 日～11月 25日	今年の漢字は?
11月 26日～12月 17日	皇室を知る
12月 18日～令和2年 1 月 19日	ステキな図書館ってどんなカンジ!?
2 月 1 日～2 月 22日	ウイルスに正しく抵抗する
2 月 24日～3 月 6 日	ネットや犯罪から身を守ろう!
3 月 7 日～3 月 5 日	追悼・古井由吉
3 月 17日～4 月 5 日	SDG s

ウ その他

当館ホームページ内で利用できる「ジャンル検索」と「新着資料」に、外国語資料と視聴覚資料の項目を追加した。また、視聴覚資料の目録（冊子体）を作成し、利用者の利便性を図った。

5 新聞雑誌班

(1) 逐次刊行物（新聞・雑誌）の充実

新聞・雑誌は、所蔵総タイトル9,811タイトルで、内2,017タイトル（購入603、寄贈1,414）を継続して収集し保存している。そのうち、新聞は45タイトル（内37タイトル継続）である。改題誌をタイトル数に加えているものもあり、所蔵総タイトル数は増加している。

寄贈雑誌は55タイトルを新規に受入れた。地域雑誌では静岡県及び県内広域行政関係機関が発行したタイトルは積極的に受入れている。

新聞マイクロフィルムは、静岡新聞静岡版と県内版替分、中日新聞東海本社版と地方版、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞の各静岡版を継続受入した。

（単位：タイトル）

分類	総タイトル数			左記のうち令和元年度継続受入タイトル数								
				購入			寄贈			合計		
	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
0 総記	2,470	24	2,494	75	11	86	312	12	324	387	23	410
1 哲学	153	0	153	14	0	14	25	0	25	39	0	39
2 歴史	586	2	588	26	0	26	136	2	138	162	2	164
3 社会科学	2,556	11	2,567	158	2	160	379	4	383	537	6	543
4 自然科学	560	0	560	60	0	60	115	0	115	175	0	175
5 技術	1,095	4	1,099	118	1	119	128	2	130	246	3	249
6 産業	1,035	3	1,038	30	3	33	88	0	88	118	3	121
7 芸術	398	1	399	55	0	55	81	0	81	136	0	136
8 語学	76	0	76	8	0	8	9	0	9	17	0	17
9 文学	837	0	837	42	0	42	121	0	121	163	0	163
計	9,766	45	9,811	586	17	603	1,394	20	1,414	1,980	37	2,017

※平成17年度から改題誌もタイトル数に含む

(2) 提供情報の充実

ア 特集記事、地域雑誌の目次、静岡県関係記事・論文の電算入力

平成10年5月から特集記事の電算入力をしているが、それにより利用者端末や当館ウェブサイトから、キーワードで特集記事やその掲載誌、巻号を検索できるようになっている。

イ 特集展示

雑誌の特集展示は、定期的にレファレンスサービスカウンター横及び総合案内カウンター前で行っている。レファレンスサービスカウンター横では、季節や社会情勢に関連したテーマ展示を、総合案内カウンター前では、主に新規受入雑誌や県内で発行している地域雑誌等の紹介をしている。

展示テーマは次のとおりで、今後も利用者の興味関心が高まるような展示に努めたい。

	レファレンスサービスカウンター横	総合案内カウンター前
3・4月	さくら	地域雑誌『SUSONO STYLE』

5・6月	レオナルド・ダ・ヴィンチ/没後500年	新着雑誌『スポーツゴジラ』
7・8月	山(8/11 山の日)	新着雑誌『BIRANZI』
9・10月	料理(食欲の秋)	地域雑誌『Co-Co-Life女子部』
11・12月	宇宙を見上げる(流星群)	新着雑誌『温泉地域研究』
1・2月	書庫雑誌紹介『暮らしの手帖』	地域雑誌『柑橘』
3・4月	大阪万博	新着地域雑誌『ハレノヒ』

ウ 地域雑誌の利用促進

地域雑誌の利用を促進するとともに利便性を高めるために、現在は25タイトルの地域雑誌の目次の電算入力を行っている(総タイトル数46)。目次を入力した地域雑誌はそれぞれの巻号ごとの目次一覧を見ることができ、入力されていないものに比べて書庫出納が多く、レファレンスサービスにも利用されている。最新情報が得られるので、豊富な所蔵タイトルが更に活用されるよう今後もこれらの電算入りに努めたい。

エ 静岡県内新聞雑誌総合目録

平成16年からウェブ公開を始めた「静岡県内新聞雑誌総合目録」には、県内公立図書館の新聞・雑誌の所蔵情報が掲載されている。県内で初めて所蔵する雑誌については書誌データを当館で入力し、そのデータをもとに県内各市町立図書館(室)が自館の所蔵情報を更新する。各図書館の担当者が共通認識のもとに情報更新ができるように、令和元年度も所蔵情報の入力方法等の操作研修を4月に当館で行った。当目録は、①「おうだんくんサーチ」に参加していない図書館の所蔵状況もわかり、②共通データベースを使用しているので検索スピードが格段に速いなどの利点がある。また、県内図書館の雑誌所蔵状況を把握できるため、レファレンスに活用するとともに、資料の購入・廃棄の際の情報源としても活用できる。各館毎で取り扱いが雑誌か図書かで異なる場合があるので検索に注意を要するが、当目録の利便性がより理解され、更に広く活用されることを期待する。

(3) その他

特別整理休館時には、これまで未着手だった雑誌書庫(書庫4)の蔵書点検を行った。点検の結果、123冊の不明資料が判明した。また153件のデータの登録誤りも判明し、これを正しく修正することができた。さらに、劣化の進んだマイクロフィルムの放酸処理やシリカゲルの交換作業もこの時に行い、資料の適切な保管に努めた。

6 一般調査班

(1) レファレンスサービス

ア 令和元年度レファレンスサービスの概要

令和元年度のレファレンス総件数は4,181件である。

レファレンス件数は前年度と比較して減少しているが、来館者のレファレンスは伸びた。平成30年度は閲覧室床の補修工事に伴い、閲覧室の利用ができなかったため、立ち入り可のスペースに設けられたレファレンスカウンターで全て書庫出納をする対応を行っていたが、平成31年3月に通常開館となり、来館者自ら資料を使い調べられる状況に戻った。状況が違いため、一概に数字の増減比較はできない。

調査種別では、所蔵・所在調査が42.9%、書誌・文献・事実調査は57.1%となった。書誌・文献・事実調査の質問内容では、静岡県に関する質問が全体の3割近くを占め、分類別では、多い順に2類（歴史・人物・地理）、7類（芸術・スポーツ）、0類（叢書・新聞）、3類（社会科学）となり、これらで全体の約7割を占めた。

市町立図書館からの問い合わせは減少傾向にあるが、市町立図書館職員に対する(2)アのレファレンス研修や(2)ウの出前研修の成果が上がっているためと考えられる。

今後も引き続き個々の利用者のみならず、市町立図書館に対する支援も含め、県内全体のレファレンスサービスの向上に努め、利用者に満足していただけるよう担当職員のレファレンススキルの向上を目指す。

令和元年度レファレンス件数 (単位：件)

①書誌・文献・事実調査件数	2,388	うち静岡県に関するもの	692
②所蔵・所在調査件数	1,793	うち静岡県に関するもの	421
合計	4,181	うち静岡県に関するもの	1,113

イ レファレンスツールの整備

利用者が知りたいことを自分で調べられるように、有用な資料やデータベースを紹介した「本の道しるべ」と題したパスファインダーの作成を行っている。これは主に当館の来館利用者に向けたもので、自由に持ち帰ることができるように閲覧室内に配置しているほか、当館ウェブサイトでも公開している。令和元年度も既刊のパスファインダーについて一部内容を見直し、改訂を行った。

ウ オンラインデータベースの充実

(ア) 導入オンラインデータベース

静岡新聞記事データベースplus日経テレコン、聞蔵Ⅱビジュアル、ヨミダス歴史館、毎索、医中誌Web、ジャパンナレッジLib、日経BP記事検索サービス、ルーラル電子図書館、近代新聞検索、第一法規法情報総合データベース、官報情報サービス、地方公共団体総覧の12種類のデータベースを導入している。また、オンラインデータベース利用促進のため、関連資料の書架等にデータベース一覧の紹介を掲示し、一般県民向けにオンラインデータベース活用講座を開催した。

(イ) オンラインデータベース利用実績

年/月	31/4	1/5	6	7	8	9	10	11	12	2/1	2	3	計
ログイン数	224	239	163	191	135	116	108	118	113	108	128	139	1,782
検索件数	4,288	13,962	11,845	5,621	7,726	8,250	3,333	2,390	8,452	6,500	6,659	7,396	86,422

※ログイン数は、聞蔵、第一法規法情報総合データベース、毎索、医中誌、ジャパンナレッジのもの。

※検索件数は、静岡新聞記事データベースplus日経テレコン、ヨミダス歴史館、ルーラル、日経BPのもの。

(ウ) オンラインデータベース活用講座の実施

令和元年度に新たに導入したデータベース「ジャパンナレッジLib」と昨年に引き続き『静岡新聞データベースplus日経テレコン』データベースを使った講座を実施した。特にジャパンナレッジLibを使った講座は初めて開催し、新しいデータベースを利用者に知ってもらう機会となった。

実施日	講座名	受講者数
7月20日(土)	知りたいことにいち早く到達できる！国内最大級の辞書・事典データベース『ジャパンナレッジLib』を使いこなそう	9人
10月26日(土)	新聞を『読む』から『使う』に変える情報ツール『静岡新聞データベースplus日経テレコン』を究めよう！	9人

(2) 市町立図書館などへの支援

市町立図書館などにおけるレファレンス業務の充実を図るため、レファレンス業務に関する情報提供、研修として次の事業を実施した。

ア レファレンス研修の実施

静岡県教育委員会と静岡県図書館協会が主催する図書館職員研修のうち、基礎研修（レファレンス基礎研修）及び、専門研修（レファレンス応用研修）を一般調査班が担当した。基礎研修は、主に図書館勤務3年目までの職員を対象にした研修で、「初級レファレンス 基礎と演習」と題し、「レファレンス概論」、「基礎的な参考図書を紹介」、「インターネットで資料を調べる」の講義とレファレンス演習を行った。会場は、中部は当館、西部は静岡県総合教育センター、東部は三島市立図書館で、参加申込みの多かった中部を2グループに分け2回行ったため、計4回の実施となった。また、中部会場では県内学校職員も参加対象とし、教員7人の参加があった。

専門研修のレファレンス応用研修は、主にレファレンス業務の経験者を対象にした研修である。一回の受講者が多かったため、午前中に「統計情報の探し方」の講義を、午後に参考図書を使った統計情報検索とインターネットを使った統計情報検索を二つのグループに分け2回行った。

基礎研修「初級レファレンス」実施状況

実施日	地区	受講者人数	実施日	地区	受講者数
5月16日(木)	中部	25人	5月29日(水)	西部	19人
5月23日(木)	中部	23人	6月5日(水)	東部	26人

応用研修実施状況

実施日	会場	受講者数
10月16日(水)	静岡県立中央図書館	17人
10月24日(木)	静岡県立中央図書館	30人

イ 教職員対象の研修(教育活動の中の著作権と情報リテラシー研修)の実施

静岡県総合教育センターで開催された、公立の小・中・高・特支の教職員及び市町教育委員会の指導主事を対象にした研修に一般調査班員が講師として赴いた。本研修は、新しい学習指導要領で求められている「教育の情報化」を進めるうえで留意すべき著作権について理解を深めるとともに情報活用能力の向上を図ることを目的としたもので、午前中に学校における教育活動と著作権をテーマにした講義(120分)を、午後にインターネットを利用した資料検索の演習(130分)を行った。

教育活動の中の著作権と情報リテラシー研修実施状況

実施日	会場	受講者数
8月21日(水)	静岡県総合教育センター	17人

ウ 出前研修の実施

図書館職員向け研修への講師派遣の要望に応えるため、平成28年度以降、県内各地区図書館等による「レファレンス業務に係る研修」に一般調査班員を講師として派遣し、基礎的な内容の講義ならびに演習を行う「出前講座」を企画・実施している。

テーマは、「レファレンス概論（インタビュー演習等を含む）」「参考図書で調べる」「資料をインターネットで探す」「図書館サービスと著作権」の4つを設定し、自由に選択できるようにしている。

令和元年度は、6会場で研修を行い、総受講者数は151人（延べ数）となった。

出前研修実施状況

実施日	会場	延べ受講者数	実施日	会場	延べ受講者数
12月17日（火）	御前崎市立図書館	13人	1月16日（木）	藤枝市立岡出山図書館	20人
1月24日（金）	富士市立中央図書館	30人	2月5日（水）	沼津市立図書館	41人
2月28日（金）	富士宮市立図書館	24人	2月28日（金）	三島市立図書館	23人

(3) 特別取扱資料等の保存と公開

ア 特別取扱資料

当館では「葵文庫」や「久能文庫」をはじめ、地域関係の古文書などの貴重な資料を多数所蔵している。これらの特別取扱資料は、収蔵庫と貴重書庫で保管し、温度20℃、湿度50%に設定した空調設備により管理している。また、害虫対策として、令和元年度は7月末にブンガノンとライセントを使用して、収蔵庫と貴重書庫の薫蒸を実施した。

虫食いや劣化等破損の見られる資料については、平成23年度から計画的に修復及び保存作業を進めている。令和元年度は『coltons general atlas』（AE80）、『Dictionnaire chinois, francais et latin』（AF096）、『Supplement au dictionnaire chinois - latin. Du P. Basile de Glemona』（AF108）、『Nieuwe atlas inhoudende de vier gedeelten der waereld』（AN284：2点）の計5点の修復を専門業者に依頼した。

イ 貴重書の閲覧・利用状況

令和元年度は、延べ37人が計633点を閲覧した。状態の悪い資料については引き続き利用の制限をしつつ、貴重資料のデジタル化、マイクロ化を推進し、それらの複製物を活用することによって資料の保存と公開の両立を図っていく。

ウ 貴重書のマイクロフィルム化・デジタル化

資料の保存と公開の両立のため、そして将来のデジタル化、デジタルライブラリーでの画像公開を視野に入れ、貴重書のマイクロフィルム化・デジタル化を計画的に進めている。

令和元年度は、貴重書のうち久能文庫143タイトルのマイクロフィルム化・デジタル化を行い、デジタルライブラリーに公開した。今後も順次、貴重書のマイクロフィルム化・デジタル化を進めていく予定である。

エ 掲載・放映許可、特別取扱資料館外貸出等

令和元年度は、当館所蔵資料の掲載（翻刻掲載を含む）または放映の申請が95件あり、前年度の108件よりも若干の減少であった。その内訳は掲載69件（前年度58件）、放映26件（同50件）であった。

また、複製許可に際して、デジタルライブラリーを通じた画像データ提供は61件（前年度は63件）であった。浮世絵（『上村翁旧蔵浮世絵集』）、郷土関係資料（『九十五年前の伊豆（天保三年）』など）、の申込みが例年どおり多かったが、その他では駿府城関係資料（『駿府城御本丸御天主台跡之図』など）の申込みが特に多かった。

なお、展示等による館外貸出については3件（13点）を許可した。

施設	催事名等	資料名
公益財団法人 静岡市文化振興財団	『生誕500年 今川義元と駿府』	『浅間大宮司富士家文書9』 『浅間大宮司富士家文書10』
静岡市東海道広重美術館	『浮世絵デザインの世界【意匠】の世界』	『上村翁旧蔵浮世絵集 (13)』他7点
静岡市文化財資料館	『賤機焼』	『駿国雑志18』他2点

オ 貴重書展示

平成23年1月に閲覧室内に開設した貴重書常設展示コーナー「『しずおか』の貴重書」を、令和元年度も継続して実施した。総合カウンター前の縦型ケースとブラウジング入口付近の横型ケースの2つを使用して、毎回3～5点の資料を展示した。所蔵する貴重資料を毎月入れ替え、多くの利用者に親しみをもってもらえるよう、わかりやすい内容紹介パネルの作成を心掛けた。また、内容解説と関連図書の紹介を掲載したパンフレット『温故知新』を作成・配布し、併せて関連図書を展示・配架した。このコーナーは地域調査班と協力し、調査課全体の企画として実施した。展示期間及び展示品は以下のとおりである。

実施日	企画名	展示品
平成31年 4月27日	新茶の季節	『皇国製茶図会』他
令和元年 5月30日		
6月1日	教科書ノスゝメ	『庭訓往来』『実語教・童子教』他
6月27日		
6月29日	夏の風物詩	『上野公園より不忍花火の夜景』他
8月29日		
8月31日	地震	『富嶽百景』『萬留帳』他
9月29日		
10月1日	江戸の旅本	『道法早算道中記—東海道中山道』他
10月30日		
11月1日	幕末の先端技術	『高縄鉄道之図』他
12月27日		
令和2年 1月7日	浮世絵でみるお正月	『千代田之大奥元旦二度目之御飯』他
1月19日		
2月1日	中世・近世の漢籍	『群書治要』『七経図』他
2月29日		
3月3日	万延元年遣米使節の軌跡	『亞墨利加紀行』他

カ 貴重書講座・見学

(ア) 貴重書講座

令和2年2月15日(土)、葵文庫の会(※)会員である矢島一氏に講師を依頼し、貴重書講座を実施した。「万延元年の『メリケン紀行』～小栗主従の書籍から辿る遣米使節～」と題し、江戸幕府初の遣米使節の一人である監察小栗忠順の従者が綴った日記体の記録『米利堅紀行』を『Colton's general atlas, with description』(『コルトンの世界地図帳、解説付き』)で、遣米使節の足跡をたどりながら、160年前のメリケン体験を紹介していただいた。普段は収蔵庫に静かに収められている葵文庫の資料をわかりやすく楽しく紹介していただいた。参加者は51人、アンケート結果では「大変満足・満足」という回答がほとんどであった。参加者からも、「遣米使節の旅を体験したようで楽しかった。」「自分も勉強したいと思った。」等の感想があり、文化的な講座を求める県民へのアピールができた。当館所蔵の貴重書と利用者をつなぐという意味でも大変有意義な講座となった。

※葵文庫について調査、研究している会。元県立中央図書館職員で構成している。

(イ) 貴重書紹介講座(図書館見学)

随時実施される図書館見学は、特に大学生の授業の一環として葵文庫・久能文庫等の解説、『論語』(葵

文庫)などの展示を行い、資料を間近で見ることによって将来を担う学生・生徒に見聞を広めてもらうことを目的としている。

また、全国の中世史研究者による中世史サマーセミナーが、静岡県富士宮市・静岡市が開催地となって実施された。当館の見学がセミナーに組み込まれ、浅間大宮司・富士家文書を研究者や学生が熱心に熟覧し、中世史の相互に理解を深めるのに役立てることができた。

令和元年度の実施状況は以下のとおりである。

実施日	会場	受講者数
5月21日(火)	会議室	静岡県立大学(学生50人 引率3人)
8月23日(金)	〃	大学教授、学生、研究者等(50人)

(4) その他の関連事業

ア 音訳奉仕員養成講習会

静岡県視覚障害者情報支援センターが主催する音訳奉仕員養成講座のプログラムの1つとして「調査・レファレンス講習会」を一般調査班で担当している。音訳や点訳に不可欠な「読み」の調査方法を、人名・地名、書名・作品名などの読みを調べる基本参考図書を紹介しながら、例題や演習問題を交えて解説した。受講者は県内各地で音訳・点訳ボランティアとして活躍する方々で、それぞれ真剣に取り組んでいただいた。実施日、受講者数は以下のとおりである。

実施日	会場	受講者数
11月21日(木)	静岡県立中央図書館	6人

イ 関係機関との連携など

「葵文庫の会」会員との連絡会を令和2年2月15日(土)に実施した。図書館からは、デジタルライブラリーの現状、貴重書の常設展示、貴重書の利用状況、貴重書の修理保存計画の状況等について報告した。その後、例会の実施回数、貴重資料についての意見交換、来年度の貴重書講座の予定及び講師依頼等について協議を行った。

7 地域調査班

(1) 地域資料の充実

当館では、静岡県に関係する全分野の資料及び静岡県出身者・在住者の著作物を積極的に収集している。令和元年度の地域資料の受入・蔵書冊数は以下のとおりである。地域資料の収集にあたっては、新刊書、古書のほか、通常の流通ルートでは入手しにくい個人・団体の出版物や県・市町の行政刊行物等についても、発行者に入手方法の問い合わせや寄贈依頼を行うなどして、収集に漏れないよう努めている。収集部数は、1資料につき2部を原則とし、1部を貸出閲覧用、1部を永久保存用としている。

(単位：冊)

分類	平成30年度末蔵書数	令和元年度受入冊数（増減数）							令和元年度末蔵書数	
		購入	寄贈	分類換	区分換 ・管理換 ・その他	類換	除籍 数	計	蔵書数	比率(%)
0 総記	12,248	202	194	32	0	1	-1	428	12,676	8.6
1 哲学	1,632	9	21	0	0	1	0	31	1,663	1.1
2 歴史	28,058	241	391	6	0	-1	-5	632	28,690	19.5
3 社会科学	47,669	82	485	232	0	0	0	799	48,468	33.0
4 自然科学	6,830	26	126	16	0	0	0	168	6,998	4.8
5 技術	10,269	66	147	54	0	0	0	267	10,536	7.2
6 産業	14,912	40	121	84	0	0	-1	244	15,156	10.3
7 芸術	7,941	58	144	26	0	0	-1	227	8,168	5.6
8 言語	477	0	14	0	0	0	0	14	491	0.3
9 文学	13,735	225	95	4	0	-1	0	323	14,058	9.6
合計	143,771	949	1,738	454	0	0	-8	3,133	146,904	100.0

(2) 提供情報の充実

ア 目次情報の入力

地域資料の書誌データ作成に際し、目次情報が検索キーワードとして有効と考えられるものについては、目次情報の入力も行っている。当館のレファレンス件数の約4分の1が静岡県に関する質問であり、この目次データはレファレンス時の有用なツールとして活用されている。また、過去に作成した書誌には目次データが未入力となっているものがあるため、遡及データの整備も継続的に行っている。

イ 二次資料の作成

現在、当館で所蔵している地域資料のうち、小・中学生の地域学習に活用できる資料をまとめた『地域学習に役立つ図書リスト』について、令和元年7月付で5年ぶりに改訂・発行を行った。改訂にあたり、より使いやすいように、テーマ別の分冊5種類を新たに作成し、『地域学習に役立つ図書リスト』と合わせて、各市町立図書館及び小中学校等に配布・周知を行った。

古書などで土地宝典等を新たに購入したことに伴い、『静岡県関係地図目録』について、令和2年3月付で改訂・発行を行った。

また、寄贈等により収集し、「静岡県の絵葉書」として受入を行っている県内の観光絵葉書について、受入時期別に個々に作成していた目録を1つにまとめ、新たに『静岡県の絵葉書』総目録として作成し、発行を行った。

(3) 資料展示

ア 貴重書常設展示

貴重書常設展示および展示内容については、「6 一般調査班」における「(3) 特別取扱資料等の保存と公開」の「オ 貴重書展示」の項目を参照されたい。

イ 地域資料の展示

新たに受け入れた地域資料は、新着地域資料コーナーに展示し、来館者への周知を図っている。

また、「地域資料特集展示コーナー もっと知りたい！ふじのくに」では、平成31年3月の閲覧室補修工事完了後の再開館から特集展示を開始した。時事に合わせたテーマと共に、書架の位置等で目に付きにくい分野をテーマに設定するなど、地域資料の周知や利用促進を図っている。

令和元年度の展示内容は以下のとおりである。

期 間	内 容
平成31年 令和元年 3月14日 ～ 5月6日	ふじのくにの絵本作家 －スギヤマ カナヨ／宮西 達也－
5月8日 ～ 8月29日	ぼくの わたしの住んでいる地域のことを調べたい!! －地域学習に役立つ図書を使ってみよう！－
8月31日 ～ 10月30日	いつまでも！さくらももこさん
令和2年 11月1日 ～ 1月19日	静岡サッカー百周年 －元祖サッカー王国への道程－
2月1日 ～ 3月29日	プラモデルの聖地静岡

(4) 市町立図書館への支援

ア 地域資料MARCの提供

県内市町立図書館等における地域資料の書誌作成業務の軽減化と県内地域資料の書誌データの標準化を図るため、当館で作成した地域資料の書誌データを地域資料MARCとして提供している。地域資料MARCは作成後、ただちに図書館ウェブサイト公開されるようになっており、各図書館をはじめ、個人でもダウンロードすることが可能である。書誌データとともに目次データもダウンロードできるため、レファレンス、地域資料の選書などにも活用することができる。

イ 運営相談等

県内市町立図書館等からの地域資料の収集・整理方法に関する相談に対応している。

また、地域資料の保存図書館として、各館等の事情で不要となった地域資料のうち、当館未所蔵資料の受け入れを行っている。

(5) 地域資料のデジタル化

地域資料のデジタル化は、当館の重点取組として積極的に推進している。近世・近代の地誌や絵葉書などについてデジタル化を行うほか、平成27年度以降は行政刊行物等のPDFファイルを収集・公開している。令和元年度に登録した資料の内訳は以下のとおりである。

	点数	内 訳
自館作成分	3タイトル	地域資料：『駿藩役名便覧』『函南震災誌』他
業務委託分	62タイトル	貴重書類：『大井家日記』『萬留帳翻刻版』他
行政資料	64点	県及び市町発行の行政刊行物等PDFファイルを公式サイトから収集

(6) 歴史文化情報センター

12 歴史文化情報センター (p59参照)

8 企画班

(1) 図書館職員研修

ア 基礎研修

(ア) 図書館基礎研修

期日・会場	4月19日（金）・静岡県立中央図書館 会議室		
参加人数	95人		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館職員の基礎知識」 認定司書 静岡文化芸術大学図書館・情報センター 堀内 古季 氏 ・「コミュニケーション」 静岡県立中央図書館 企画振興課企画班職員 ・「図書館サービスと著作権 概論」 静岡県立中央図書館 調査課職員 		

(イ) おうだんくん基礎研修

期 日	4月24日（水）	4月25日（木）	5月15日（水）
会 場	静岡県立中央図書館 会議室		
参加人数	29人	24人	20人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「おうだんくんサーチ」 静岡県立中央図書館 企画振興課企画班職員 ・「静岡県の図書館」 同企画振興課振興班職員 ・「静岡県新聞雑誌総合目録」 同資料課新聞雑誌班職員 ・「静岡県地域資料書誌提供システム」 同調査課地域調査班職員 ・「相互貸借の基本」 同企画振興課振興班職員 ・「おうだんくん ILL」 同資料課図書班職員 		

(ウ) レファレンス基礎研修

期 日	5月16日（木）	5月23日（木）	5月29日（水）	6月5日（水）
会 場	静岡県立中央図書館 会議室		静岡県総合教育センター （あすなろ） 情報研修室	三島市立図書館 （生涯学習センター） 研修室・パソコン教室
参加人数	25人	23人	19人	26人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「レファレンス概論」 ・「基礎的な参考図書を紹介」 ・問題演習、解説 ・「インターネットで資料を調べる」 <p style="text-align: right;">静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員</p>			

イ 専門研修

(ア) 図書館広報研修

期日・会場	6月12日（水）・静岡県立中央図書館 会議室		
参加人数	27人		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「ウィキペディア編集の基礎」 Code for ふじのくに代表、総務省地域情報化アドバイザー 市川 博之 氏 		

(イ) 大学・専門図書館研修

期日・会場	9月4日(水)・静岡理工科大学 501教室	
参加人数	27人	
内 容	・会場図書館事例報告 静岡理工科大学附属図書館 岡部 恵理 氏、古橋 裕子 氏 ・「デジタルアーカイブ利活用のための国際的な枠組み：IIIF 入門」 一般財団法人人文情報学研究所主席研究員 永崎 研宣 氏	

(ウ) 図書館情報研修

期日・会場	9月13日(金)・静岡県立中央図書館 中集会室	
参加人数	29人	
内 容	・「立法調査」 国立国会図書館職員 ・「法令等の調べ方」 国立国会図書館職員	

(エ) 児童・青少年サービス研修

期日・会場	10月3日(木)・静岡県立中央図書館 会議室	
参加人数	52人	
内 容	・「子どもの本の紹介文の書き方」 日本図書館協会児童青少年委員会委員、元関西大学講師 川上 博幸 氏	

(オ) レファレンス応用研修

期 日	10月16日(水)	10月24日(木)
会 場	静岡県立中央図書館 会議室、中集会室	
参加人数	17人	30人
内 容	・「統計情報の探し方」 ・「参考図書を使った統計情報検索」 ・「インターネットを使った統計情報検索」 静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員	

(カ) 図書館サービス研修

期日・会場	12月19日(木)・静岡県立中央図書館 会議室	
参加人数	71人	
内 容	・「日本十進分類法新訂10版の特徴ー移行に向けてー」 日本図書館協会分類委員会委員 蟹瀬 智弘 氏 ・「書架をもっと魅力的に！サインと配架を工夫する」 ・「サインの見出し語をつくってみよう」 司書・「サインはもっと自由につくる」著者 中川 卓美 氏	

ウ 運営研修**(ア) 館長研修会**

期日・会場	4月23日(火)・静岡県立中央図書館 会議室	
参加人数	39人	
内 容	・「これからの公共図書館の再検討：論点整理と欧州での展開事例」 株式会社未来の図書館研究所長、筑波大学名誉教授 永田 治樹 氏	

(イ) 図書館運営研修

期日・会場	7月11日(木)・静岡県自治研修所 402教室
参加人数	22人
内 容	・「図書館サービス計画の立案・策定」 座間市立図書館主幹(司書) 兼 奉仕係長 三村 敦美 氏

エ 特別研修

(ア) 図書館情報交換会

期 日	10月18日(金)	11月20日(水)	12月6日(金)
会 場	富士市立西図書館	静岡県コンベンションアーツセンター “グランシップ”	磐田市ひと・ほんの庭 にこっと
参加人数	12人	14人	25人
内 容	・図書館見学(10月18日、12月6日) ・分科会(グループワークによる情報交換会)		

(2) 利用者からの意見

ア 提案ボックス

「提案ボックス」を設置することによって、利用者からの意見・要望をいち早く収集し、利用者が必要とする情報の提供や、利用者の声を図書館運営に反映するよう努めた。

「提案ボックス」件数統計

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
提案件数	2	0	0	2	0	1	3	3	0	3	2	1	17
回答・改善 件数	2	0	0	2	0	0	2	1	0	2	1	1	11

提案件数は、昨年度から14件増加した。提案の内容は、主に施設設備や利用規定に関するもので、苦情申し立ての手段として利用されることが多い。早期回答を心がけ、なるべく改善に繋げるよう努めた。

イ 利用者実態調査

(ア) 調査の概要

当館では、平成9年度から継続的に利用者に対してアンケートを実施し、利用者の来館目的や利用資料等について調査してきた。平成29年度及び平成30年度は閲覧室閉室のため実施しなかったが、令和元年度は利用者の実態やニーズを分析し、サービスの向上を図るため、3年ぶりに調査を行った。

(イ) 調査期間

2月1日(土)～2月7日(金) 6日間 ※2月3日(月) 休館日

(ウ) 分析結果

【付属資料】「令和元年度『静岡県立中央図書館 来館者アンケート』集計結果」(p47)

(3) イベント等

ア 図書館講座、講演会

(ア) 図書館講座 葵レク

日時	内容	講師	募集	応募	参加
6月19日(水)	新刊サロン①	当館職員	—	1人	4人

7月20日(土)	オンラインデータベース活用講座① 知りたいことにいち早く到達できる！国内最大級の辞書・事典データベース『ジャパンナレッジLib』を使いこなそう	酒井 康治 氏 (㈱ネットアドバンス(小学館グループ) マネージャー)	20人	10人	9人
8月21日(水)	新刊サロン②	当館職員	—	13人	15人
10月16日(水)	新刊サロン③	当館職員	—	3人	18人
10月26日(土)	オンラインデータベース活用講座② 新聞を『読む』から『使う』に変える情報ツール『静岡新聞データベース plus 日経テレコン』を究めよう！	樋口 貴子 氏 (㈱キャリアデザイン代表取締役)	20人	10人	9人
12月14日(土)	新刊サロン④	当館職員	—	8人	11人
2月15日(土)	貴重書講座 万延元年の『メリケン紀行』～小栗主従の書籍から辿る遣米使節～	矢島 一 氏 (葵文庫の会)	70人	67人	51人
2月19日(水)	新刊サロン⑤	当館職員	—	2人	6人
2月22日(土)	健康医療情報講演会 ノルディック・ウォーク体験教室	静岡県ノルディック・ウォーク連盟 指導員	30人	41人	24人

(イ) 子ども図書研究室講演会

日時	内容	講師	募集	応募	参加
7月9日(火)	ことばを育むわらべうた	落合 美知子 氏 (「おはなしとおんがくのちいさいおうち」主宰)	200人	196人	214人

(ウ) 大人の読書推進事業講演会

日時	内容	講師	募集	応募	参加
9月14日(土)	大人のたしなみセミナー チームでうまくいくコミュニケーション～ラグビーから学んだこと～	小野澤 宏時 氏 (静岡県教育委員、ラグビー元日本代表)	200人	201人	193人
10月20日(日)	大人のたしなみセミナー 駿府城～豊臣・徳川2つの天守を探る～	加藤 理文 氏 (公益財団法人日本城郭協会理事)	200人	203人	196人

イ 展示

期間	展示会名称	連携機関等	開催場所
7月2日 ～8月29日	龍勢花火展	草薙神社龍勢保存会	展示室
8月1日 ～8月29日	ユニバーサルデザイン絵本コンクール作品展	静岡文化芸術大学	閲覧室
8月7日 ～8月18日	統計グラフコンクール作品展	県統計利用課	インフォメーションホール
8月31日 ～9月29日	ラグビーワールドカップ2019 関連展示	県ラグビーW杯推進課	インフォメーションホール
10月1日 ～11月4日	歴史的公文書でたどる静岡県の歴史	県法務文書課	インフォメーションホール
10月4日 ～11月20日	静岡県で舞うチョウの仲間たち展	ふじのくに地球環境史ミュージアム	展示室
11月6日 ～12月15日	障害者スポーツ展	NPO 法人静岡 FID サッカー連盟	インフォメーションホール

2月1日 ～4月17日	静岡県立中央図書館・山梨県立 図書館連携展示 もっと知りたい山梨県 富士 山の向こうに	山梨県立図書館	ブラウジング
2月20日 ～4月17日	JICA海外協力隊写真展	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 中部センター	インフォメー ションホール
2月23日 ～3月22日	静岡発！昭和の幼児指導絵本 『あそび』展	静岡大学学生「幼児指導絵本 あそび」研究チーム	展示室
3月25日 ～4月17日	さくら写真展	静岡県さくらの会	展示室

ウ 図書館特別企画

(ア) 夏休み子ども図書ウィーク

日時	内容	講師等	募集	応募	参加	開催場所
8月3日(土)	谷田山親子自然観察講 座	読み聞かせネットワー ク	20人	4人	4人	中集会室
8月4日(日) 8月18日(日)	親子お茶教室 (2回連続講座)	對比地 信夫 氏 (日本茶インストラク ター)	20人	中止	中止	中集会室
8月7日(水)	ふじっぴーの親子グラ フ教室	県統計利用課職員	30人	15人	17人	中集会室
8月8日(木)	折り紙あそび	読み聞かせネットワー ク	20人	21人	19人	中集会室
8月9日(金)	ユニバーサルデザイン 絵本手作り教室	林左和子氏 (静岡文化芸術大学)	20人	23人	20人	中集会室

(イ) ふじのくに文化の丘フェスタ

日時	内容	講師等	募集	応募	参加	開催場所
10月20日(日)	大人のたしなみセミナー 駿府城～豊臣・徳川2つ の天守を探る～	加藤 理文 氏 (公益財団法人日本城 郭協会理事)	200人	203人	196人	講堂
10月26日(土)	葵レク オンラインデ ータベース活用講座② 新聞を『読む』から『使 う』に変える情報ツール 『静岡新聞データベー ス plus 日経テレコン』 を究めよう！	樋口 貴子 氏 (㈱キャリアデザイン 代表取締役)	20人	10人	9人	中集会室

※期間中に開催した館内企画展は特別企画に含まれる。

(4) 図書館サポーター

ア 登録状況 (過去3年)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
読み聞かせ	23人	26人	18人
館内サービス	8人	2人	2人
環 境	—	1人	2人

イ 活動内容

- 読み聞かせ : グランシップにおける「おはなしかい」の実施など。
- 館内サービス : 生涯学習等の発表。呈茶や資料紹介ポップ作成等。
- 環 境 : 生け花や手工芸品の展示による館内装飾など。

ウ 活動実績

- 読み聞かせ : グランシップにおける「おはなしかい」の実施 (活動実績p27参照)
- 館内サービス : 呈茶サービスの実施

環 境 : 館内装飾の実施

(5) 職場体験学習等

ア 職場体験学習

校種	7月25日(木) ～7月26日(金)	8月1日(木) ～8月2日(金)	合計
中学生	6人	6人	12人
高校生	25人	18人	43人
合計	31人	24人	55人

イ インターンシップ(大学生)

期 間	大学・学部名	人数
8月27日(火)～9月10日(火)	筑波大学情報学群知識情報・図書館学類	2人
8月27日(火)～9月2日(月)	常葉大学教育学部生涯学習学科	1人
8月27日(火)～9月2日(月)	相模女子大学学芸学部日本語日本文学科	1人
合計		4人

ウ 社会体験研修(公立高等学校初任者研修(課題研究))

県立高等学校教諭 1人(芸術科1人)

エ 施設見学・視察

校 種	校数・団体数	人数(引率者含む)
小 学 校	2	50人
中 学 校	2	27人
高 等 学 校	1	17人
大学・短大	2	103人
図書館・県関係者	2	5人
合計	9	202人

(6) 図書館広報

ア 静岡県立中央図書館だより(文化の丘)

年4回(6月初旬、9月初旬、12月初旬、3月初旬)発行。当館の事業(サービスや講座など)を広報し、図書館利用の促進を図った。

No. 362 (R1. 6)～No. 365 (R2. 3) 発行 各3,000部

配布先: 県内教育委員会、県内小中高等学校、県内市町立図書館等

イ 当館ウェブサイトの運用等

一般利用者向けウェブサイトや県内図書館向け「おうだんくんシステム」の各種サービスを滞りなく運用・提供した。

(7) ムセイオン静岡

ア 趣旨

ムセイオン静岡とは、静岡県立中央図書館、静岡県立大学、静岡県立美術館、静岡県埋蔵文化財センター、静岡県コンベンションアーツセンター“グランシップ”、静岡県舞台芸術センター(SPAC)、及びふじのくに地球環境史ミュージアムの7つの教育文化機関による自主協働プログラム。静岡市の谷田の丘陵地帯及びその周辺地域を、本県の文化振興やまちづくりに貢献する地域に発展させるため「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結し、相互に協力して文化を創造し、国内外に発信する活動を展開している。「ムセイオン」は、“Museum”(博物館、美術館)

の語源で、「学堂」を意味する。

なお、事務局は平成28年度から静岡県立大学が担当している。

イ 令和元年度事業実績

イベント等

＜共通イベント＞

・「ふじのくに文化の丘フェスタ 2019」（10月19日～11月4日）

＜各機関実施事業での連携協力（当館実施事業のみ）＞

・ふじのくに地球環境史ミュージアム連携ミニ企画展「静岡県で舞うチョウの仲間たち展」（10月4日～11月20日）

(8) 浙江図書館との友好提携

ア 経緯

平成4年、静岡県・浙江省友好提携10周年を機に浙江省から静岡県に図書が寄贈され、寄贈図書は当館に所蔵されている。その後、県内図書館職員等の有志が浙江図書館を訪れ、親交を結んできた。さらに、浙江省からの技術研修員受入れや当館の調査団派遣等を経て、平成21年2月、浙江省教育交流訪日団来静を機に、「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を締結。平成21年度以降の図書交換等の交流事業について定めた。

イ 令和元年度の実績

(ア) 上記の友好提携に基づく図書交換

寄贈30冊、受贈31冊（静岡県、浙江省の生活・文化が理解できる写真やイラストが豊富に含まれた資料を中心に交換）

(イ) 受贈図書の「浙江省文庫」への配架

(9) 山梨県立図書館との連携協定

ア 趣旨

富士山の文化振興に貢献するため平成27年6月、「山梨県立図書館と静岡県立中央図書館との富士山関係資料に関する連携協定」を締結。両館で所蔵する富士山関係資料を相互に活用できる環境を整えるとともに、両館の連携により、富士山の自然、文化を情報発信している。

イ 令和元年度事業実績

(ア) 連携推進協議会

・第1回（7月18日・山梨県富士山科学研究所）

・第2回（2月7日・静岡県立中央図書館）

(イ) 静岡県・山梨県関係資料の相互利用による企画展示

・「もっと知りたい山梨県 富士山の向こうに」（2月1日～4月17日・静岡県立中央図書館）

・「もっと知りたい静岡県 富士山の向こうに」（1月31日～3月15日・山梨県立図書館）

(10) 市町立図書館等受取サービス

当館の資料を全県民が活用しやすい環境を整備し、県民の学習活動及び文化の向上に寄与することを目的として、「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」を行っている。

平成27年10月から受取館4館で先行導入し、平成28年6月に受取館を拡大して本格導入に移行をした。なお、サービス導入に合わせて、貸出カードの郵送申込みを可能にしている。

令和元年度利用実績（遠隔地貸出資料数）

区 分	延べ利用者数 (人)	貸出冊数 (冊)	対応時期
伊東市立伊東図書館	119	420	H28.6～
函南町立図書館	106	514	H27.10～
三島市立図書館	223	852	H28.6～
沼津市立図書館	162	711	H28.6～
富士市立中央図書館	97	575	H28.6～
富士宮市立中央図書館	94	412	H27.10～
藤枝市立駅南図書館	298	1,115	H28.6～
掛川市立中央図書館	120	521	H28.6～
磐田市立中央図書館	290	1,223	H27.10～
浜松市立城北図書館	338	1,700	H27.10～
県総合教育センター図書室	0	0	H28.6～
合 計	1,847	8,043	

(11) 海外技術研修員の受入れ

静岡県は国際協力事業の一環として、海外技術研修員受入事業を実施している。当館では平成31年度受入事業の中で中国浙江省浙江図書館から孫曉清氏を研修員として受け入れ、図書館に関する研修を行った。

研修期間：令和元年10月11日（金）～令和2年2月25日（火）

令和元年度「静岡県立中央図書館 来館者アンケート」集計結果

実施：令和2年2月1日（土）～2月7日（金）【6日間】※2月3日（月）休館日 有効回答数：340

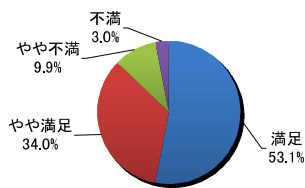
※比率(%)の合計は、端数処理のため合わないことがあります。
 ※平成29年度及び平成30年度は閲覧室閉室のため、アンケートを実施していません。



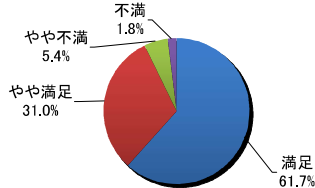
【質問1】当館の満足度

質問	満足	やや満足	やや不満	不満	合計	満足+やや満足	対H28比傾向	平成28年度	平成27年度
(1) 開館日や開館時間の設定	178 53.1%	114 34.0%	33 9.9%	10 3.0%	335 100.0%	87.1%	8.5% ↑	78.6%	84.6%
(2) 読書・調べもの・勉強スペース	205 61.7%	103 31.0%	18 5.4%	6 1.8%	332 100.0%	92.7%	2.2% ↑	90.5%	87.1%
(3) 貸出冊数・期間	242 78.1%	53 17.1%	12 3.9%	3 1.0%	310 100.0%	95.2%	-1.8% ↓	97.0%	95.7%
(4) 目的の図書などの見つけやすさ	149 47.2%	133 42.1%	25 7.9%	9 2.8%	316 100.0%	89.3%	5.4% ↑	83.9%	85.5%
(5) 蔵書数・蔵書構成	128 41.2%	121 38.9%	52 16.7%	10 3.2%	311 100.0%	80.1%	-4.9% ↓	85.0%	81.1%
(6) 当館ウェブサイトの機能	119 42.8%	120 43.2%	31 11.2%	8 2.9%	278 100.0%	86.0%	-3.9% ↓	89.9%	87.0%
(7) 職員の対応	205 66.6%	88 28.6%	9 2.9%	6 1.9%	308 100.0%	95.2%	-0.2% ↓	95.4%	93.9%
(8) 職員の業務知識	165 61.1%	94 34.8%	7 2.6%	4 1.5%	270 100.0%	95.9%	-0.2% ↓	96.1%	95.9%
(9) 本日の来館目的の達成度	193 59.2%	109 33.4%	16 4.9%	8 2.5%	326 100.0%	92.6%	-3.6% ↓	96.2%	96.0%
(10) 総合的な満足度	178 54.1%	136 41.3%	8 2.4%	7 2.1%	329 100.0%	95.4%	2.1% ↑	93.3%	90.6%
平均						91.0%	0.4% ↓	90.6%	89.7%

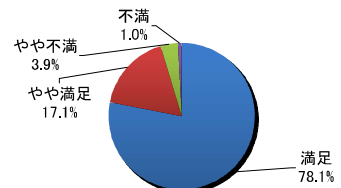
(1) 開館日や開館時間の設定



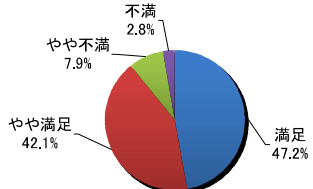
(2) 読書・調べもの・勉強スペース



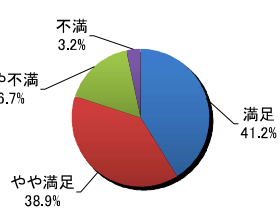
(3) 貸出冊数・期間



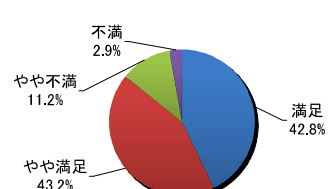
(4) 目的の図書の見つけやすさ



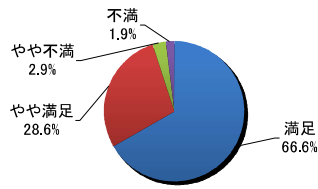
(5) 蔵書数・蔵書構成



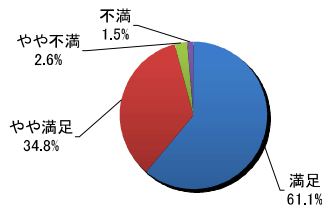
(6) 当館ウェブサイトの機能



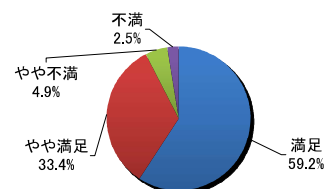
(7) 職員の対応



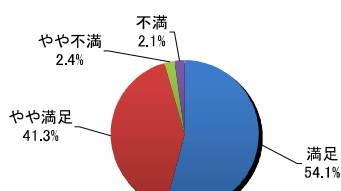
(8) 職員の業務知識



(9) 本日の来館目的の達成度

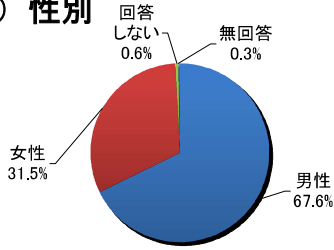


(10) 総合的な満足度



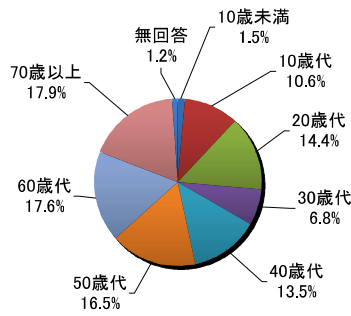
【質問2】 アンケート回答者について

① 性別



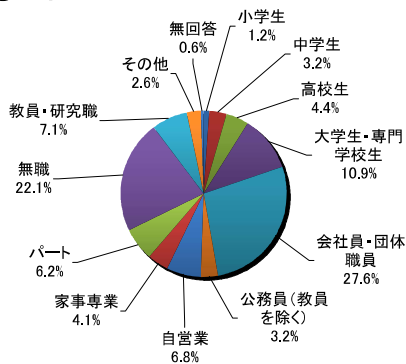
項目	回答数	割合	対H28比傾向	平成28年度	平成27年度
男性	230	67.6%	-3.9%	71.5%	56.8%
女性	107	31.5%	4.0%	27.5%	34.7%
回答しない	2	0.6%			
無回答	1	0.3%	-0.6%	0.9%	8.4%
合計	340	100.0%			

② 年齢



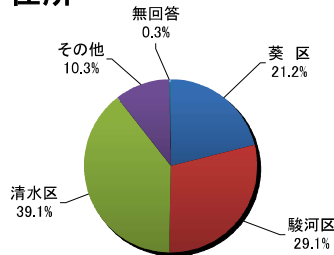
項目	回答数	割合	対H28比傾向	平成28年度	平成27年度
10歳未満	5	1.5%	0.6%	0.9%	13.0%
10歳代	36	10.6%	-10.3%	20.9%	
20歳代	49	14.4%	3.6%	10.8%	10.9%
30歳代	23	6.8%	-1.7%	8.5%	9.5%
40歳代	46	13.5%	-1.4%	14.9%	16.5%
50歳代	56	16.5%	1.6%	14.9%	12.6%
60歳代	60	17.6%	0.8%	16.8%	19.3%
70歳以上	61	17.9%	5.9%	12.0%	10.5%
無回答	4	1.2%	0.9%	0.3%	7.7%
合計	340	100.0%			

③ 職業



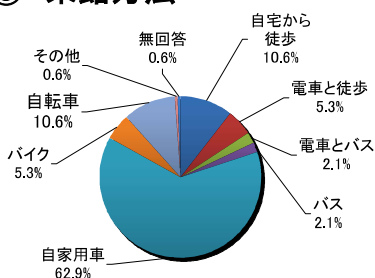
項目	回答数	割合	対H28比傾向	平成28年度	平成27年度
小学生	4	1.2%	-0.7%	1.9%	0.7%
中学生	11	3.2%	-5.7%	8.9%	12.0%
高校生	15	4.4%	-5.7%	10.1%	
大学生・専門学校生	37	10.9%	5.5%	5.4%	6.3%
会社員・団体職員	94	27.6%	3.5%	24.1%	24.9%
公務員(教員を除く)	11	3.2%	-1.9%	5.1%	3.2%
自営業	23	6.8%	-3.0%	9.8%	5.6%
家事専業	14	4.1%	1.6%	2.5%	5.6%
パート	21	6.2%	0.8%	5.4%	7.0%
無職	75	22.1%	2.8%	19.3%	20.0%
教員・研究職	24	7.1%	5.8%	1.3%	2.8%
その他	9	2.6%	-2.1%	4.7%	3.5%
無回答	2	0.6%	-1.0%	1.6%	8.4%
合計	340	100.0%			

④ 住所



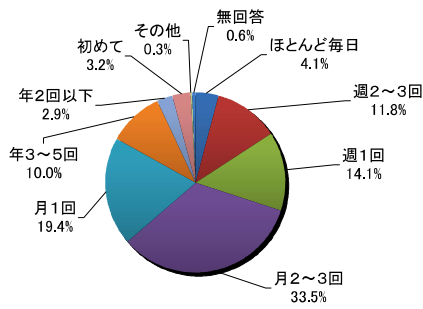
項目	回答数	割合	対H28比傾向	平成28年度	平成27年度
静岡市計	304	89.4%	0.8%	88.6%	83.9%
葵区	72	(21.2%)	-0.3%	21.5%	18.2%
駿河区	99	(29.1%)	-3.2%	32.3%	31.6%
清水区	133	(39.1%)	4.3%	34.8%	34.0%
その他	35	10.3%	-0.5%	10.8%	9.8%
無回答	1	0.3%	-0.3%	0.6%	6.3%
合計	340	100.0%			

⑤ 来館方法



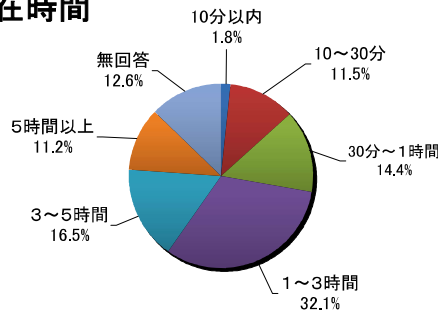
項目	回答数	割合	対H28比傾向	平成28年度	平成27年度
自家用車	214	62.9%	3.7%	59.2%	52.0%
自転車	36	10.6%	-3.6%	14.2%	10.9%
バス	7	2.1%	-0.7%	2.8%	3.5%
電車とバス	7	2.1%	0.8%	1.3%	
電車と徒歩	18	5.3%	-2.3%	7.6%	18.9%
徒歩	36	10.6%	4.2%	6.4%	
その他	2	0.6%	0.3%	0.3%	0.0%
無回答	2	0.6%	-1.6%	2.2%	11.2%
合計	340	100.0%			

⑥ 利用頻度



項目	回答数	割合	対H28比傾向	平成28年度	平成27年度
ほとんど毎日	14	4.1%	0.6%	3.5%	1.1%
週2～3回	40	11.8%	-5.0%	16.8%	15.8%
週1回	48	14.1%	-5.8%	19.9%	16.1%
月2～3回	114	33.5%	3.8%	29.7%	30.2%
月1回	66	19.4%	10.2%	9.2%	13.7%
年3～5回	34	10.0%	-1.1%	11.1%	10.2%
年2回以下	10	2.9%	0.7%	2.2%	
初めて	11	3.2%	-2.5%	5.7%	2.4%
その他	1	0.3%	0.0%	0.3%	1.7%
無回答	2	0.6%	-1.0%	1.6%	8.8%
合計	340	100.0%			

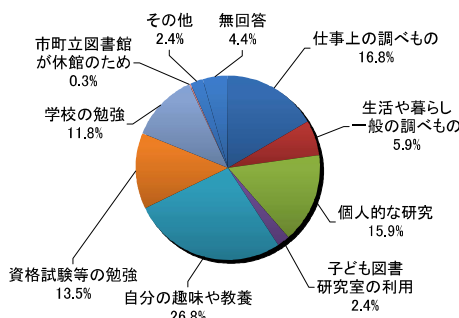
⑦ 滞在時間



項目	回答数	割合	対H28比傾向	平成28年度
10分以内	6	1.8%	1.5%	0.3%
10～30分	39	11.5%	5.8%	5.7%
30分～1時間	49	14.4%	4.6%	9.8%
1～3時間	109	32.1%	-0.5%	32.6%
3～5時間	56	16.5%	-6.9%	23.4%
5時間以上	38	11.2%	-6.5%	17.7%
無回答	43	12.6%	2.2%	10.4%
合計	340	100.0%		

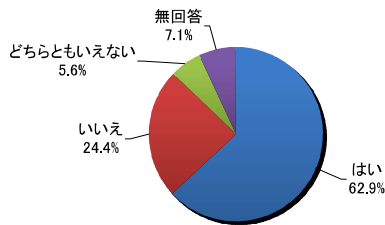
【質問3】当館に期待すること等について

① 来館目的



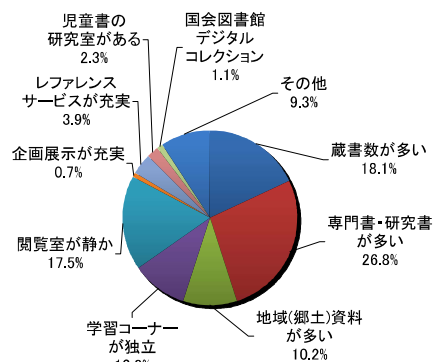
項目	回答数	割合	対H28比傾向	平成28年度	平成27年度
仕事上の調べもの	57	16.8%	0.7%	16.1%	13.6%
生活や暮らし一般の調べもの	20	5.9%	3.4%	2.5%	6.5%
個人的な研究	54	15.9%	4.2%	11.7%	12.7%
子ども図書研究室の利用	8	2.4%			
自分の趣味や教養	91	26.8%	11.6%	15.2%	27.6%
資格試験等の勉強	46	13.5%	-9.0%	22.5%	20.1%
学校の勉強	40	11.8%	-6.6%	18.4%	11.8%
市町立図書館が休館のため	1	0.3%	-0.6%	0.9%	1.2%
その他	8	2.4%	-1.1%	3.5%	1.2%
無回答	15	4.4%	-4.8%	9.2%	5.3%
合計	340	100.0%			

② 市町立図書館と当館について



(1) 意識的に市町立図書館と使い分けをしているか

項目	回答数	割合	対H28比傾向	平成28年度	平成27年度
はい	214	62.9%	3.1%	59.8%	54.0%
いいえ	83	24.4%	-3.4%	27.8%	25.6%
どちらともいえない	19	5.6%	0.2%	5.4%	6.7%
無回答	24	7.1%	0.1%	7.0%	13.7%
合計	340	100.0%			



(2) 市町立図書館との違い

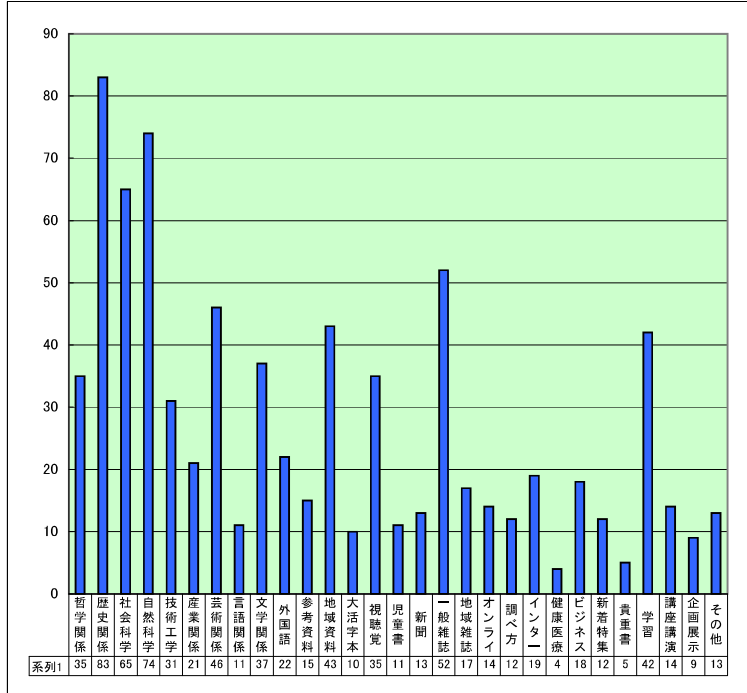
項目	回答数	割合	対H28比傾向	平成28年度
蔵書数が多い	103	18.1%	0.5%	17.6%
専門書・研究書が多い	153	26.8%	2.5%	24.3%
地域(郷土)資料が多い	58	10.2%	3.3%	6.9%
学習コーナーが独立	58	10.2%	-8.2%	18.4%
閲覧室が静か	100	17.5%	-1.2%	18.7%
企画展示が充実	4	0.7%	-1.2%	1.9%
レファレンスサービスが充実	22	3.9%	-0.7%	4.6%
児童書の研究室がある	13	2.3%		
国会図書館デジタルコレクション	6	1.1%	0.5%	0.6%
その他	53	9.3%	2.4%	6.9%
合計	570	100.0%		

(3つまで選択)

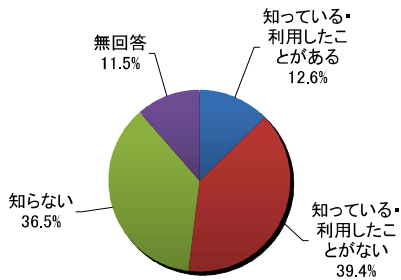
③ 充実を望む分野

項目	回答数	割合
哲学関係	35	4.5%
歴史関係	83	10.6%
社会科学関係	65	8.3%
自然科学関係	74	9.5%
技術工学関係	31	4.0%
産業関係	21	2.7%
芸術関係	46	5.9%
言語関係	11	1.4%
文学関係	37	4.7%
外国語図書	22	2.8%
参考資料(事典等)	15	1.9%
地域資料	43	5.5%
大活字本	10	1.3%
視聴覚資料(CD,DVD,ビデオ)	35	4.5%
児童書研究資料	11	1.4%
新聞	13	1.7%
一般雑誌	52	6.6%
地域雑誌	17	2.2%
オンラインデータベース	14	1.8%
調べ方案内	12	1.5%
インターネット閲覧パソコン	19	2.4%
健康医療情報コーナー	4	0.5%
ビジネスコーナー	18	2.3%
新着・特集棚	12	1.5%
貴重書展示	5	0.6%
学習コーナー	42	5.4%
図書館講座・講演会	14	1.8%
企画展示(資料以外の展示)	9	1.1%
その他	13	1.7%
合計	783	100.0%

(3つまで選択)



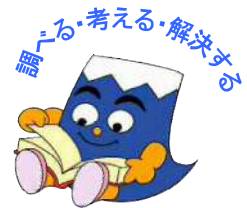
④ 「子ども図書研究室」を知っているか



項目	回答数	割合
知っている・利用したことがある	43	12.6%
知っている・利用したことがない	134	39.4%
知らない	124	36.5%
無回答	39	11.5%
合計	340	100.0%

〈当館が役に立ったこと、評価できる点〉※一部抜粋・省略有

- ・ 専門書の蔵書が豊富
- ・ 館員が親切丁寧
- ・ 稀少で高価な図書をじっくりと読むことができる
- ・ 子ども図書研究室の存在
- ・ 児童書全点買い
- ・ 閲覧室の机が多く、一つ一つが大きく、ライトも設置されている
- ・ 地元図書館での資料の受取が便利
- ・ 学習コーナーはとても集中できる
- ・ 月刊誌が多いのが良い
- ・ 緑に囲まれた静かな落ち着いた感じ
- ・ 借用した本の延長がWebで簡単に出来、延長できる日数も長い
- ・ 貸出冊数が非常に多い
- ・ パソコンの利用が可能なスペースが広い
- ・ 施設がとても清潔
- ・ 定期的なブースの展示物は興味深い
- ・ 閲覧室が広くて静か
- ・ 駐車場に近くて便利
- ・ 地域に関する資料が豊富
- ・ レファレンスサービスで本を見つけられる



県立中央図書館

【お問い合わせ】 企画振興課企画班

☆☆ご協力ありがとうございました☆☆

9 振興班

(1) 市町立図書館振興

ア 市町立図書館運営の支援・協力

(ア) 市町立図書館運営の支援

a 図書館活動振興に関わる運営相談

市町立図書館等からの運営等に関する様々な問い合わせに対して、図書館活動の振興の面から助言や情報提供を行った。質問の受付手段は特に限定していないが、協力車による訪問時や電話が多い。

相談内容は、サービス内容や新館構想、図書館協議会や資料の整理など、多岐にわたることから、他課と連携して対応している。また、各館からの要請に応じて、協力車訪問での聞き取りにより他館の状況を調査し、希望する館に提供した。

なお、令和元年度の相談件数は 262 件で、結果は毎年「運営相談一覧」等にまとめ、市町立図書館等に配布している。

b 図書館未設置町への支援

静岡県内の唯一の図書館未設置自治体である川根本町に対して支援を行っている。

令和元年度は 7 月 24 日と 12 月 24 日に川根本町を訪問し、文化会館図書室及び山村開発センター図書室で、特に児童書や絵本に関する運営相談に対応した。

(イ) 協力車の定期運行による資料・情報の提供等

協力車事業では、市町立図書館等に年 9 回訪問する協力車の定期運行（8 コース、協力車事業の統計 p52 参照）と、年に一度の分館・地域館訪問（3 コース）及び宅配による資料の搬送を実施した。なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和 2 年 3 月の協力車定期運行を中止した。

協力車の定期運行では、情報交換や運営に関連する相談への対応、資料の提供及び事務連絡等を実施することで、各館との連携を図った。

(ウ) 参考資料・二次資料の作成と提供

『図書館協力ハンドブック PLUM2019』、『令和元年度静岡県の図書館』を発行した。

イ 職員研修（別項一覧表 p39～41 参照）

ウ 図書館活動の振興・奨励

(ア) 静岡県図書館大会の開催（令和元年度静岡県図書館大会 p53～p55 参照）

(イ) 読書活動の広報

(ウ) 読み聞かせグループ活動との連携

(2) 関係団体との連携

ア 大学・専門図書館との連携

宅配による静岡県立中央図書館資料（協力貸出）の搬送を実施するとともに、一部の大学・専門図書館と県内市町立図書館間との間で、送料負担なしの相互貸借サービスも継続して実施した。

（静岡大学附属図書館、静岡県男女共同参画センター図書室、静岡県総合教育センター図書室、静岡県議会図書室、静岡県立大学附属図書館、静岡県立大学短期大学部附属図書館、静岡県立大学附属図書館小鹿図書館）

また、静岡理工科大学において、静岡県図書館協会と共催で大学・専門図書館研修を行った。

イ 静岡県図書館協会

県内図書館の連携を図り、情報交換するとともに図書館の振興を図った。

(ア) 令和元年度静岡県図書館大会の開催

(イ) 職員研修（別項一覧表 p39～41 参照）

(ウ) 『静岡県図書館協会加盟館職員名簿』の発行

(エ) 『静岡県図書館協会 会報』（73・74 号）発行

ウ 静岡県読書推進運動協議会

県内優良読書グループを表彰するなど、県民の読書活動の推進を図った。

oア) 優良読書グループ表彰

(イ) 「静岡県 読書活動だより」の発行

(ウ) 「静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会」の共催

9月8日に静岡県立中央図書館において、画家の降矢なな氏を講師に全体講演会「絵本のこと。絵を描くこと。」を開催した。(参加者 210人)

(エ) 「静岡県図書館大会」の共催

11月18日に、静岡県図書館大会第3分科会(大人の読書活動)で、書店「読書のすすめ」代表の清水克衛氏による講演会「大人の読書活動 ～逆のものさし講～」を開催した。(参加者 237人)

(オ) 夏休み子ども図書ウィークの協賛

「谷田山親子自然観察講座」及び「ユニバーサルデザイン絵本手作り教室」について、協賛事業として開催した。

エ 静岡県読み聞かせネットワーク

事務局の連絡先として、問い合わせに対する案内や情報交換等を行った。

また、9月8日に静岡県立中央図書館において、全体講演会「絵本のこと。絵を描くこと。」を開催した。講師の画家・降矢なな氏からは、翻訳する作品との向き合い方や、絵を担当する際は文章から湧くイメージを色々な角度から見て絵の構成を決めていくこと、作品に合った画材の選定など、画家ならではの話を伺うことができた。(参加者 210人)

(3) 協力車事業

ア 令和元年度訪問館数(各館毎月1回の訪問・休止月あり)

(単位:館)

市立図書館(中央館)	市立図書館(分館)	町立図書館	専門図書館	合計
23	1	11	1	36

イ 令和元年度協力車運行状況

コース名	訪問館数	訪問回数	コース名	訪問館数	訪問回数
東 遠	4館	8回	駿 豆	4館	8回
岳 駿	4館	8回	伊 豆	8館	8回
中 部	4館	8回	東 部	4館	8回
西 遠	3館	8回	中 遠	5館	8回
合 計		64回(延べ日数72日)			

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年3月の協力車定期運行を中止した。

ウ 令和元年度市内巡回運行状況

(単位:回)

訪 問 館	訪問回数
静岡県議会図書室	51
静岡県立大学附属図書館	51
静岡県立大学短期大学部附属図書館 静岡県立大学附属図書館小鹿図書館	25
静岡県男女共同参画センター図書室	51
静岡大学附属図書館	25

エ 協力車巡回と宅配による資料搬送数（過去3年）

(ア) 県立資料搬送数 (単位：点)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
市立図書館	7,136	9,592	10,356
町立図書館	884	1,590	1,556
その他	1,258	828	1,830
合計	9,278	12,010	13,742

(イ) 市町等資料搬送数 (単位：点)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
市立図書館	35,768	33,156	33,894
町立図書館	5,254	6,004	4,480
その他	1,314	680	1,220
合計	42,336	39,840	39,594

(ウ) 県立個人貸出資料の市町図書館等窓口返却資料搬送数 (単位：点)

各窓口	平成29年度	平成30年度	令和元年度	開始日
市町立図書館	2,435	1,992	3,492	H11. 5. 1
総合教育センター“あすなろ”	8	18	49	H11. 5. 1
県民サービスセンター(ブックポスト)	560	388	764	H11. 11. 1
男女共同参画センター“あざれあ”	355	195	394	H13. 2. 15
グランシップ	2,281	1,956	2,709	H14. 8. 13
静岡大学	345	268	379	H18. 4. 1
静岡県立大学短期大学部附属図書館 静岡県立大学附属図書館小鹿図書館	—	—	28	H31. 4. 1
合計	5,984	4,817	7,815	

(4) 令和元年度 静岡県図書館大会

会期・会場：令和元年11月18日(月)9:45~15:45 グランシップ中ホールほか(参加者953人)

ア 講演・対談

テーマ	「ソーシャル・イノベーションを巻き起こす図書館へ」
講師	太田 剛 氏 (図書館と地域をむすぶ協議会チーフディレクター、慶應義塾大学講師、編集工学機動隊 GEAR 代表) 林 左和子 氏 (静岡文化芸術大学文化政策学部教授)

イ 分科会

第1分科会	図書館サービス①(参加者 95人) 「図書館の防災を考える ～大災害から人と資料を守るために～」 講師 川島 宏 氏(株式会社栗原研究室代表/ 日本図書館協会図書館災害対策委員会・図書館施設委員会委員)
第2分科会	図書館サービス②(参加者 88人) 「図書館とスポーツ ～Read BOOK Lead ACTIVE 図書館でもっとアクティブに～」 講師 木間 奈津子 氏(独立行政法人日本スポーツ振興センター情報・国際部企画運営課 JAPAN SPORT NETWORK プロジェクト/ 早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員)

第3分科会	大人の読書活動（参加者 237人） 「大人の読書活動 ～逆のものさし講～」 講師 清水 克衛 氏（書店「読書のすすめ」代表及びNPO 法人読書普及協会会長）
第4分科会	児童・YAに対するサービス（参加者 255人） 「YAの読みたい心に火をつける！」 ～「イマドキの子ども」と「本」を繋ぐために、図書館ができること～」 講師 木下 通子 氏（埼玉県立浦和第一女子高等学校担当部長兼主任司書）
第5分科会	学校図書館（参加者 134人） 「やってみよう！ブックトーク ～授業に使える司書教諭・学校司書の技～」 講師 石橋 幸子 氏（東京学芸大学講師・武蔵野大学講師）
第6分科会	大学図書館（参加者 28人） 「学生を中心とした図書館の最適化（リデザイン）」 ～学生の行動から学習空間とサービスを考える～」 講師 國本 千裕 氏（千葉大学アカデミック・リンク・センター リサーチ・commons推進部門特任准教授）

ウ 表彰(敬称略)

「読書県しずおか」づくり優秀実践校・団体（者）表彰	
・小学校の部	御前崎市立浜岡北小学校
・中学校の部	静岡市立東中学校
・高等学校の部	静岡県立富士宮西高等学校
・特別支援学校の部	静岡県立東部特別支援学校伊豆下田分校
・団体（者）の部	図書館ボランティア「さくらんぼ」（静岡市）
全国公共図書館協議会表彰	
江崎 直利	（静岡県立中央図書館協議会）
鈴木 通代	（静岡県立中央図書館協議会）
久永 公子	（静岡県立中央図書館協議会）
静岡県図書館協会表彰	
仁科 清恵	（伊豆の国市立中央図書館）
石橋 紀子	（伊豆の国市立葦山図書館）
大阿久 園	（三島市立図書館）
鈴木 朱実	（島田市立金谷図書館）
河合 香代子	（袋井市立袋井図書館）
三枝 春奈	（静岡県立大学附属図書館）

優良読書グループ表彰

- | | | |
|-------------------------------------|--------|-----------|
| ・(公社)読書推進運動協議会長賞
おとぎのへや | (富士宮市) | 代表 遠藤 智子 |
| ・静岡県読書推進運動協議会長賞
富士市学校読み聞かせネットワーク | (富士市) | 代表 伝田 里美 |
| わらしな わたげの会 | (静岡市) | 代表 小島 烝二 |
| おはなしエプロン | (島田市) | 代表 野中 恵美子 |
| 相小おはなし会 | (牧之原市) | 代表 植田 由美子 |
| 大型紙芝居グループ・トンボの目 | (清水町) | 代表 齋藤 美枝 |
| 米山文庫こども図書館 | (長泉町) | 代表 鈴木 正明 |

10 総務班

(1) 図書館協議会

ア 委員

任期：平成30年8月1日から令和2年7月31日まで

職名	氏名	任期	現職
会長	小幡 壯	○	静岡県立大学附属図書館長（静岡県立大学教授）
副会長 31.2.7就任	川崎 敦子	○	静岡県教育研究会学校図書館研究部長（静岡市立安東小学校長）
委員	青野 全宏	○ 31.3.20 辞任	社会福祉法人ピロス理事 福祉ホームピロスのいえ施設長
委員	内山 淳子	○	東伊豆町立図書館長
委員	江崎 直利	○ 30.11.30 辞任	㈱藤枝江崎書店代表取締役、㈱藤枝江崎新聞店専務 静岡県書店商業組合理事長
委員	大井 喜子	○	島田市立第三小学校教育支援員、静岡県子ども読書アドバイザー、 読み聞かせボランティア「さくらんぼ」代表
委員	岡本 妙	○	株式会社静岡新聞社 編集局出版部
委員	鈴木 千明	○	磐田市立富士見小学校・城山中学校 図書館ボランティア 読み聞かせボランティア
委員	増田 南月	○	静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科4年
委員	村松 啓至	○	磐田市教育委員会教育長
委員	山崎 克巳	○ 31.4.22 就任	障害者相談支援センターピロス相談支援専門員 静岡県車いす友の会役員 ふじのくにユニバーサルデザイン推進委員会委員
委員	吉見光太郎	○ 30.12.1 就任	静岡県書店商業組合理事長、株式会社吉見書店代表取締役 静岡教科書株式会社常務取締役

イ 協議会

(ア) 第1回

日時：令和元年5月17日（金）午後2時～午後4時

場所：静岡県立中央図書館 会議室

出席者：委員9人

- 議事：1 県立中央図書館の状況と重点取組
2 各班の業務説明と重点施策
3 新県立中央図書館整備について

(イ) 第2回

日時：令和2年2月27日（木）午後1時30分～午後4時

場所：静岡県立中央図書館 中集会室

出席者：委員7人

- 議事：1 県立中央図書館の状況について
2 令和元年度の重点取組・重点施策の評価
3 令和2年度の重点取組について
4 新県立中央図書館の整備に向けた取組

(2) 施設設備の維持管理

ア 資料棟

(ア) 貴重書庫空調設備修繕

貴重書庫空調設備の加湿器が壊れたため修理した。

(イ) トップライト雨漏り補修

屋上トップライト部分から、雨漏りが発生したため補修した。

(ウ) 閲覧室機の照明取替え

閲覧室の閲覧机 45 席の照明を LED に交換した。

イ インフォメーション棟

(ア) 屋上防水補修

雨漏りが確認された部分の防水補修を行った。

(イ) 環水槽給水配管修理

機械室内にある環水槽の配管から漏水が発生したため修理した。

(ウ) インフォメーションホール水銀灯取替え

インフォメーションホール水銀灯 2 灯を LED に交換した。(30 年度までに 6 灯交換済)

ウ 旧埋蔵文化財センター他

(ア) 旧埋蔵文化財センター敷地内の樹木伐採

旧埋蔵文化財センター内の樹木を伐採した。

(イ) 旧埋蔵文化財センター駐車場外灯修繕

旧埋蔵文化財センター駐車場の街灯で漏電が発生したため、照明器具を取替えた。

(3) 施設利用状況 令和元年度 各施設の外部利用人数（展示室は貸出日数）

	講 堂	会議室	中集会室	小集会室 A	小集会室 B	合 計 (人)	展示室 (日)
上半期	525	419	243	80	212	1,479	183
下半期	240	286	206	343	203	1,278	183
合 計	765	705	449	423	415	2,757	366

※展示室は埋蔵文化財センターによる常設展示を継続して実施（4/1～3/31）

11 健康医療情報サービス

当館では平成23年7月に健康医療情報コーナーを開設し、健康医療情報サービスを開始した。
コーナーからの情報発信を中心に、ウェブサイト上でも当館のサービスへ関心を寄せていただくために
情報提供を行っている。

(1) サービス内容

ア 健康医療情報コーナー

- ・特集展示

月	テーマタイトル	月	テーマタイトル
3～5月	肺がん	6・7月	生活習慣病
8・9月	スポーツ疾患	10・11月	うつ病・自殺予防
12～2月	ノルディック・ウォーク	3・4月	小児がん

- ・新聞記事切抜き情報と関連資料展示
- ・健康医療参考資料（医学辞典・患者会資料等）
- ・がん関連資料 約250冊（6種別区分）
- ・健康医療系雑誌 約10タイトル（『公衆衛生』『チャイルドヘルス』他）
- ・県内医療機関等パンフレット 約70点（病院だより・相談窓口情報他）

イ オンラインデータベースコーナー

インターネット上で有料公開されている医療情報などを無料で利用できる。

- ・医療関連新聞記事検索 静岡新聞データベースplus日経テレコン（日経新聞・静岡新聞）
聞蔵Ⅱビジュアル（朝日新聞） ヨミダス歴史館（読売新聞）
- ・医学論文検索 CiNii Articles（日本国内の医学関係論文）

(2) 関連事業

ア 講座

- ・健康医療情報講演会 令和2年2月22日（土）10:00～12:00 参加：24人
演題：「ノルディック・ウォーク体験教室」
講師：静岡県ノルディック・ウォーク連盟 指導員 大橋 敏弘氏 ， 鈴木 憲介氏

イ 出張図書館

県立図書館が所蔵する健康医療に関する資料の展示、新規利用者カード登録、貸出処理等

- ・「第24回静岡健康・長寿学術フォーラム（世界お茶まつり2019秋の祭典のプログラムの1つ）」
実施日：令和元年11月9・10日（土・日）11:00～16:30
会場：グランシップ11階ロビー 利用者：101人

ウ 外部機関との共催事業など

- ・まちの保健室 県看護協会による健康相談会及び看護職によるミニ講座
実施日：令和元年9月27日（金）9:00～11:30 相談：16人 講座参加：10人
- ・医学情報キホン勉強会（県立こども病院と共催）
実施日：令和元年7月8日（月）13:00～17:00 会場：静岡県立こども病院

12 歴史文化情報センター（地域調査班）

(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開

ア 保存・整理

当センターは『静岡県史』編さん事業の過程で集められた県内外の古文書類等の複製資料や明治以降の県内発行新聞各紙など約 16 万点以上の資料と他県史・県内市町村史を中心とする刊本を保管している。現在、保管する古文書資料等の目録作成及びデータベースへの登録を継続して行っている。

イ 公開

刊本・新聞は閲覧できるが、貸出はしていない。古文書類については、目録作成が終了したのから原所蔵者に対し順次資料利用公開の許可申請を行い、公開許可の回答が得られたもののみを公開している。

また、ウェブでの公開許可が得られた資料については平成 20 年 4 月から目録公開を開始した。平成 22 年 5 月の新システム稼働に伴い、所蔵者から公開許可をいただいている資料の画像登録と公開も新たに始め、情報発信を充実させた。

令和元年度も引き続き古文書目録及び画像資料をウェブ公開した。また、布達及び新聞紙情報の目録も公開している。

(2) 利用状況

令和元年度当センターの開館日数は 240 日、来所者人数 201 人、利用内訳は新聞閲覧点数 53 点（209 件）、古文書閲覧点数 59 点（577 件）、複写申請 88 点（633 件）、資料掲載等許可申請 40 点（76 件）、レファレンス 195 件であった。

レファレンスの内訳は下記の表のとおりである。

ア レファレンス受付方法

方法	割合(%)
電話	64.62
来室	20.51
その他	14.87

イ レファレンス内容

内容	割合(%)
県史の内容等	3.08
歴史・民俗について	35.38
資料利用について	27.69
その他	33.85

ウ レファレンス対象

対象	割合(%)
一般(県内)	26.15
一般(県外)	16.41
県庁内	16.92
研究者・学生	9.24
自治体	7.18
新聞社・出版社等	14.36
その他	9.74

13 資料紹介 戦前の静岡県史資料等（その6）

歴史文化情報センター

はじめに

平成 26 年に静岡県立中央図書館で偶然発見された戦前の静岡県史編纂資料については、『葵』49号、50号、51号、52号に一部資料を紹介し、特に50号、51号、52号では静岡県内の小字名調査及び小字名表を、53号では予算差引簿及び県史編纂事業と並行して実施された史跡名勝天然記念物の調査に関わる資料について詳述した。

今回は、県史編纂事業及び史跡名勝天然記念物に関わる資料ではないが、同時に発見された宮廷関係資料やその他の資料について述べたい。

1 宮廷関係資料

大正 10 年 11 月 13 日から 11 月 15 日に皇太子が日本軍特殊演習視察のために御殿場を訪問した際、その準備に関する文書である。「宮廷関係」と墨で縦書きされた厚紙(写真1)に紙縫りで綴じられている。21 点の文書が存在するが、以下の如く大きく3種類に区分することができる。

(1) 御座所設営の設計に関わる文書

大正 10 年 8 月 8 日に静岡県駿東郡役所の郡長(発信者勝又)から県庁内務部長(受信者熊岡)に掛けられた電話記録の報告である(写真2)。皇太子の御座所設営に関わる設計書ができたので8月9日に県庁職員と打合わせしたい旨記載されている。御座所設営に関わる文書は、これ一つであり、綴じられている資料のなかでは最も古い日付けの文書である。

(2) 皇太子の送迎に関わる文書

皇太子送迎のための人員配置に関する文書である。文書数は 11 点と最も多い。大正 10 年 9 月 17 日付けで知事官房主事から駿東郡役所の郡長に宛てられた通知書には、御殿場駅で皇太子を送迎するための人員配置図が参謀本部から県庁へ送付されてきたので、郡役所へ通知すると記され、当日の人員配置図が添付されている(写真3、4)。さらに 10 月 1 日付けで知事官房主事から郡長宛てに御殿場駅と板妻駅間の道筋で、観衆が押し寄せる混乱の恐れが有るため、観衆の配置について検討するよう指示書をだしている。これを受けて、10 月 10 日付けで郡長から知事官房主事へ観衆の配置図(案)ができたので、県庁で検討してほしい旨依頼

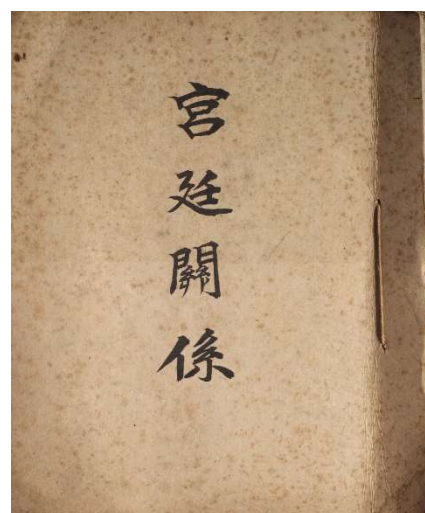


写真1 宮廷関係資料表紙

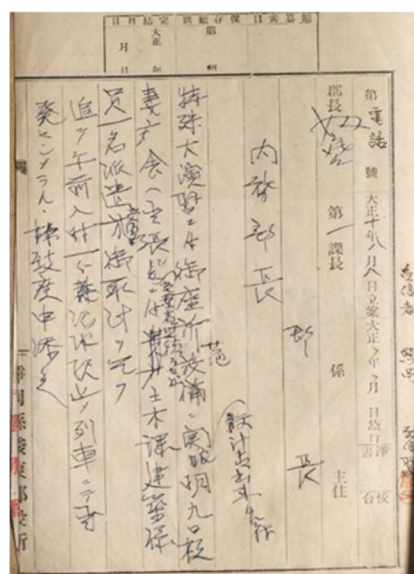


写真2 御座所設営文書

している。10月21日付けで県庁内務部長から駿東郡役所の郡長宛てに皇太子送迎の人員配置図の配布先一覧(配布先町村及び町、村に所在する軍人会、青年会など)を送付している。郡役所もこれを受けて、10月24日付けで駿東郡役所の第一課長から御殿場、富士岡、玉穂、高根・須走、北郷、小山、足柄、原里、印野、須山の各町、村長へ配布依頼の起案をしている(写真5)。是より先、10月22日付けでも駿東郡役所の第一課長から富士岡、印野、原里、玉穂、須山・高根、須走、北郷、御殿場、足柄、小山の各町、村長へ人員配置について周知するよう通知している。しかし、11月2日に郡役所の第一課長から印野、原里、須山・高根村長に対し、24日に通知した内容の修正が発生したため、これを修正するよう起案がなされている。同日付けで富士岡、玉穂、須走、北郷、御殿場、足柄、小山の各町、村長へも同じ内容で通知書を起案している。

御殿場駅での皇太子の送迎人員の配置に関しては、9月17日付けで知事官房主事から駿東郡役所の郡長へ標識となる木札を立てるよう通知している。この通知書には、木札の枚数や大きさ等が記載されている。これを受けて、10月25日付けで駿東郡役所の第一課長から御殿場町長へ木札の樹立について指示起案がされている。その他、皇太子送迎の人員配置に関しては10月29日付けで県庁内務部長から郡長宛てに、赤十字社の普通社員約100名が参列するので、これらの参列者についても配置を検討するよう通知している。

(3) 東宮職員の賄いに関する文書

皇太子視察に随行する東宮職員の賄いに関する文書が9点存在する。10月19日付けで知事官房主事から駿東郡役所の郡長へ出された通知書には、東宮職と静岡県庁との協議により皇太子の視察に関する食料品の準備・調達については、静岡県内で信用のおける業者を選定してほしい旨記載し、随行する東宮職員の日安人数(未確定)を通知している(写真6)。これを受けて、10月25日付けで郡長から知事官房主事に対し、賄いについて見積りを作成したが、御殿場方面で適切な業者が見つからないので、三島館で請負ってはどうかとの起案を作成している。更に同日付けで知事官房主事宛てに見積書の送付起案をしている。送付書に添付されている見積書には、東宮職員の等級に応じた食事の単価表、食材の内訳書が記載されており、

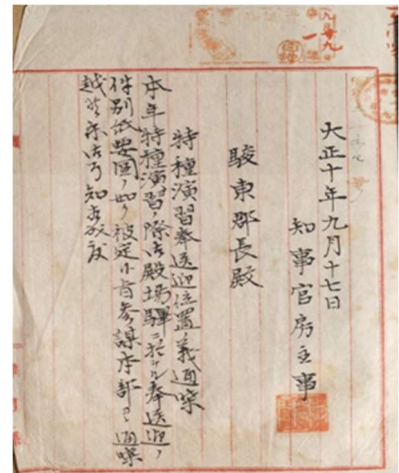


写真3 皇太子送迎文書

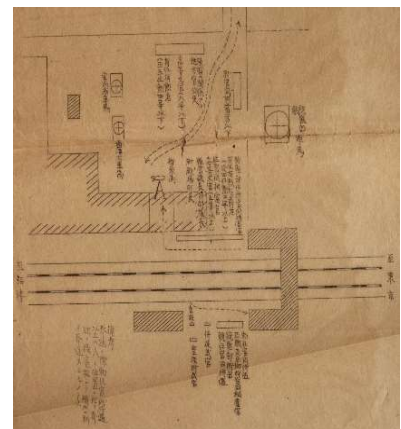


写真4 皇太子送迎配置図

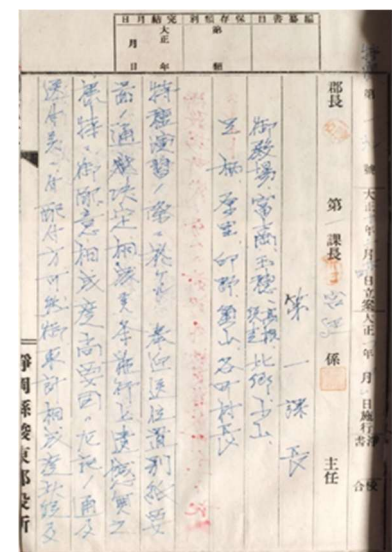


写真5 皇太子送迎文書

作成者として駿東郡楊原村の世古松朗の名前と押印が付いている。11月1日付けで知事官房主事から郡長宛てに、25日に提出された賄いに関わる見積書が東宮職で承認されたと通知している。

なお、賄いに関する文書の中に沼津警察署の電話用紙に記載された知事官房主事から駿東郡役所の郡長に宛てられた報告がある。日付けはないが、皇太子に随行する東宮職員の等級と員数が記載されていることから、10月19日付けで知事官房主事から郡長へ出された賄いに関わる見積書作成の依頼後に急ぎ出されたものであろう。

賄いに関する文書としてはその他に、食材保冷のために製氷業者を選定する文書がある。11月2日付けで内務部長から郡長宛てに、食料冷却用の氷を手配するよう東宮職から依頼があった旨を通知し、日ごとの氷使用量を記載している。11日に東宮職員の先発隊が到着するので、それまでに製氷業者を選定しておくよう指示している。これを受けて、11月5日付けで郡役所の第一課長から御殿場町長宛てに県庁内務部長からの指示を伝える起案をしている。11月10日付けで御殿場町長から郡長宛てに製氷業者として日東製氷会社代表 勝又治作を選定したとの報告があったので、同日これを郡長から県庁の内務部長へ報告する起案を作成している。

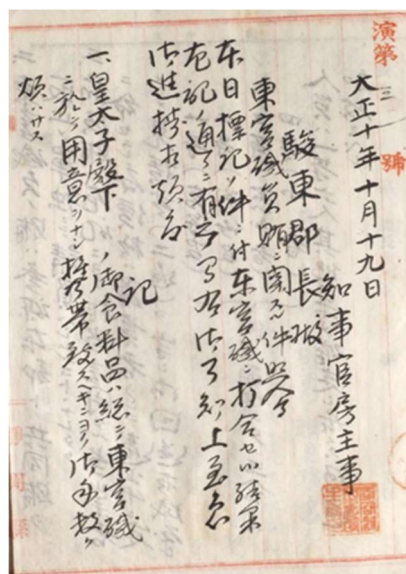


写真6 東宮職賄い文書

2 静岡県学校衛生會會則

学校衛生の改善と向上を図る目的で大正2年に大日本学校衛生協会が設けられたことを受け、大正9年に各府県の学校衛生活動を統括する帝国学校衛生会が設立された。これ以降、各府県、郡市で学校衛生会が設置され、昭和7年に静岡県各郡市における学校衛生会の連合体として、静岡県学校衛生会が設立された。事務所は静岡県庁の学務部教育課に置かれた。当該「静岡県学校衛生會會則」(写真7)は、昭和15年2月付のもので、23条の会則と1条の附則、細則、會計に関する規定、静岡県学校衛生會役員氏名、各郡市選挙代議員氏名の5項目について5頁にわたり記載している。会則の8条から10条によれば、静岡県知事を総裁とし、若干名の顧問、会長(1名学務部長)、副会長(2名)、理事(11名)、代議員(若干名)で組織されている。

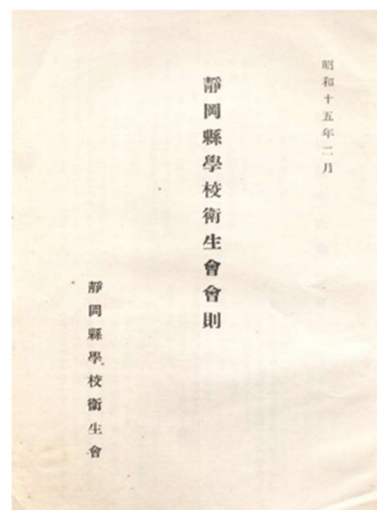


写真7 静岡県学校衛生會會則

3 国民学校職員年功の加俸調(葉書)

磐田地方事務所の学務課から佐久間国民学校長宛ての葉書である。8月10日付けで次回から国民学校職員の年功加俸給の調書は各学校から直接県庁へ送付せよとの通知である(写真8)。送付年は不明であるが、国民学校の存在時期からみて、昭和16年4月1日以降、昭和22年3月までのものと思われる。

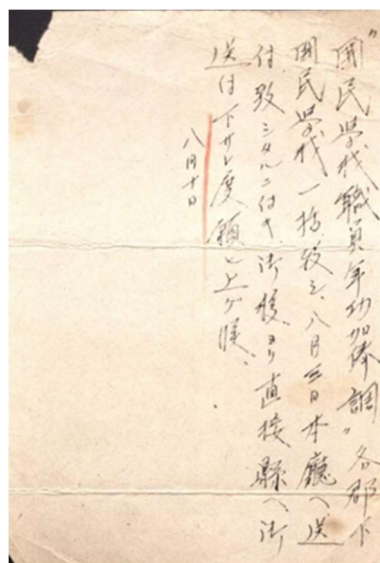


写真8 加俸調(葉書)

4 大正写真館撮影の写真

2枚の写真が有る。1枚目の写真には2個の漆塗り小さな机が撮影されており、台紙に貼られた写真は「しずおか大正写真館」と印刷された紙ケースに入れられている。台紙には静岡市大正写真館の印字と共に「BY TAKABATAKE・SHIGEO」の印字がある(写真9)。もう一つの写真も同じような台紙と紙ケースに入れられ、先の机を前面に置いて後方に正装した14人の人物が写っている。紙ケース及び台紙の印字も同様である(写真10)。撮影者「TAKABATAKE・SHIGEO」は大正写真館の主、高島茂雄のことで、『ふるさと百話』15巻(静岡新聞社刊)、高島の自叙伝『或画家の手紙』(東映館刊)によれば、写真館は大正初期に高島により静岡市の江川町に建てられたが静岡空襲で焼失し、高島茂雄は昭和39年11月30日に72歳で死亡している。



写真9 大正写真館の写真(机)

小机が2脚あること、それに関わったと思いき人々が正装して撮影されていること、写真館の近くに静岡御用邸があることから見て皇室への献上品、さらに想像を逞くすれば皇太子(後の昭和天皇)の御成婚を祝し作成した机とその関係者の写真の可能性もあるが、今のところ何時頃、何の目的で撮影された写真かは不明である。

以上、『葵』49号から当『葵』54号で述べたものが平成26年に発見された資料の全てである。

当該資料は、静岡県立中央図書館が所蔵し公開している。また、複写物を歴史文化情報センターでも公開している。

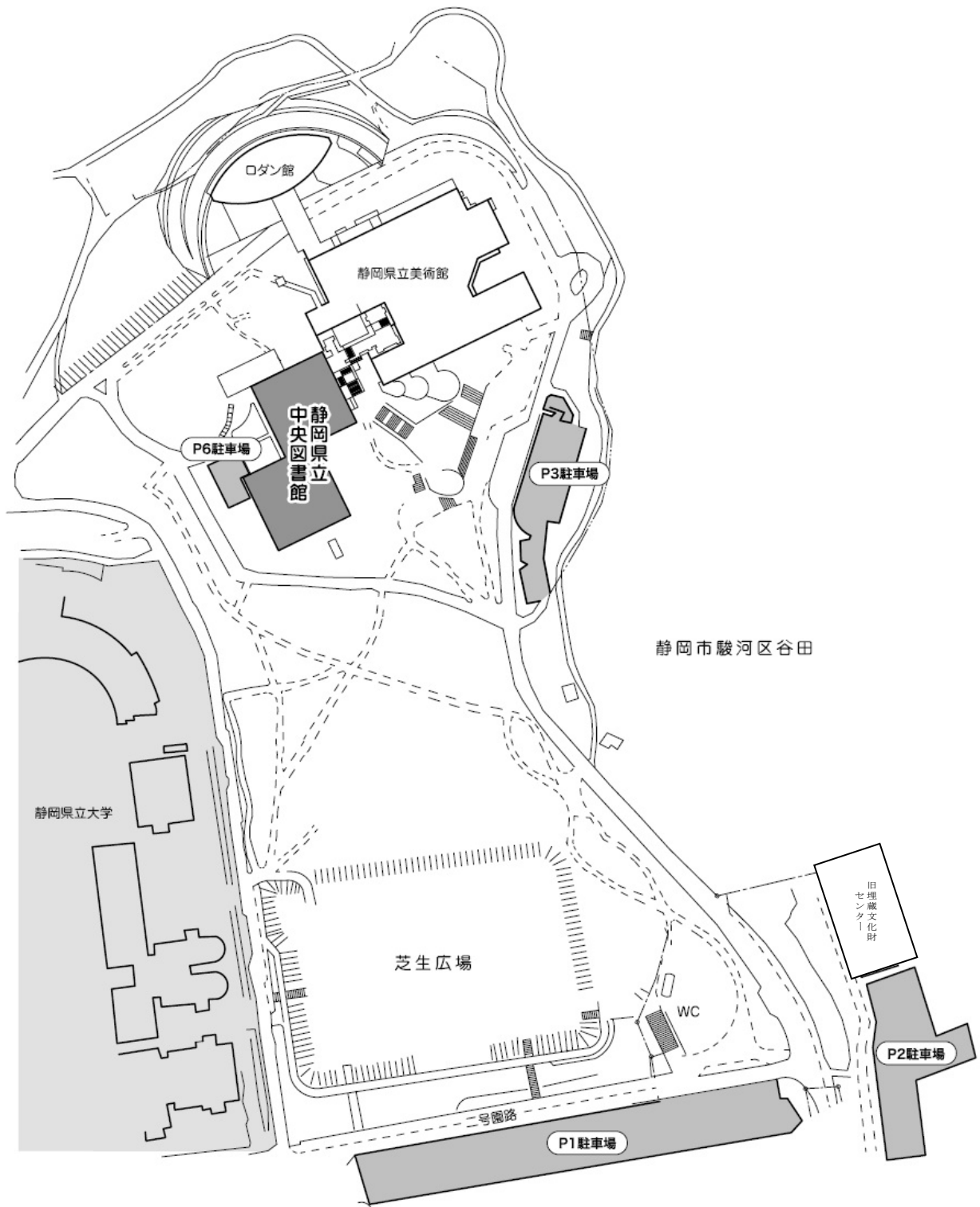
(文責 中嶋郁夫)



写真10 大正写真館写真(机、人物)

Ⅲ 施設及びサービス案内

1 図書館配置図



2 施設の概要

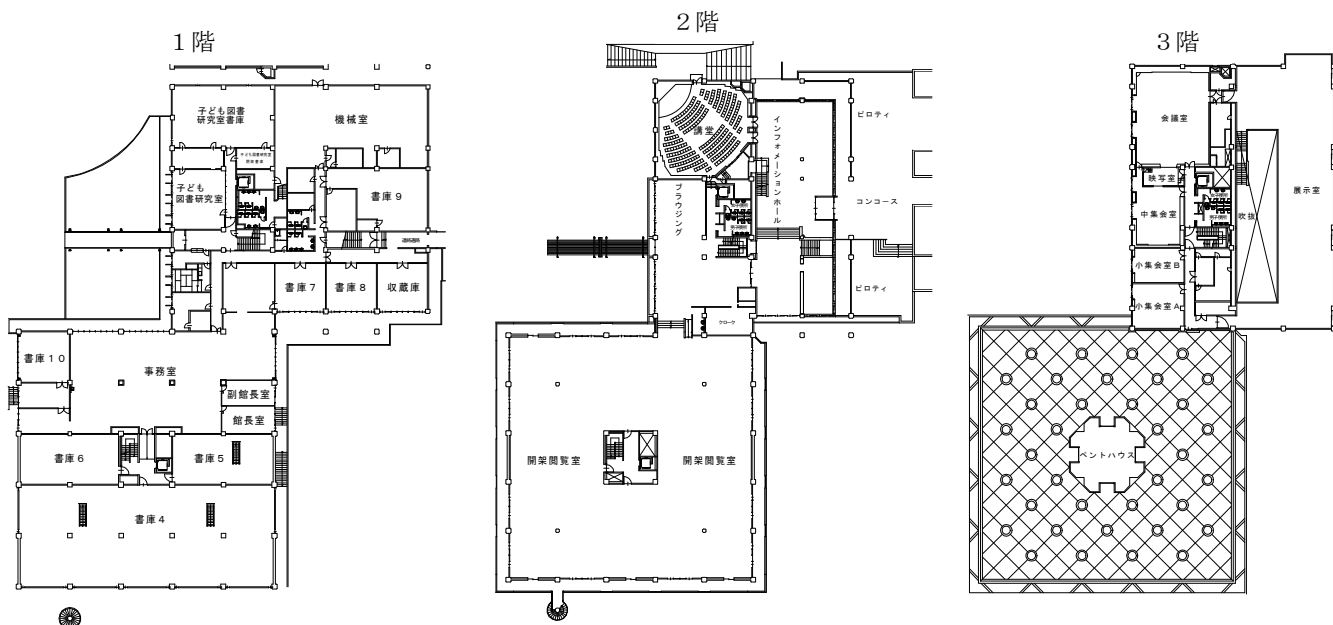
(1) 静岡県立中央図書館

- ・鉄筋コンクリート 地上3階 地下1階
- ・延面積 8,816.64 m²
- ・主な施設 閲覧室 (1,522.56 m² 188席) 書庫 (延2,515.56 m²) 子ども図書研究室 (92.00 m²)
事務室 (593.60 m²) 電算室 (96.00 m²)

.....

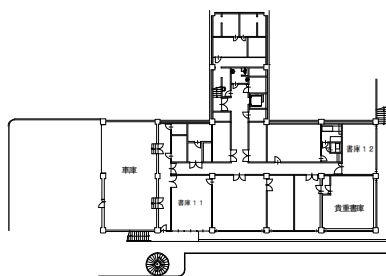
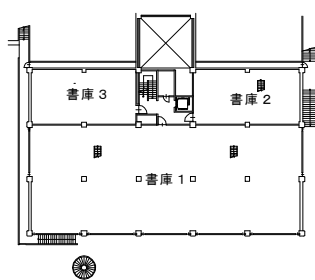
- 講堂 (276人) 会議室 (120人)
- 中集会室 (50人) 小集会室A (30人) 小集会室B (20人)
- 展示室 (延壁90 m²)

・平面図 (以下のとおり)



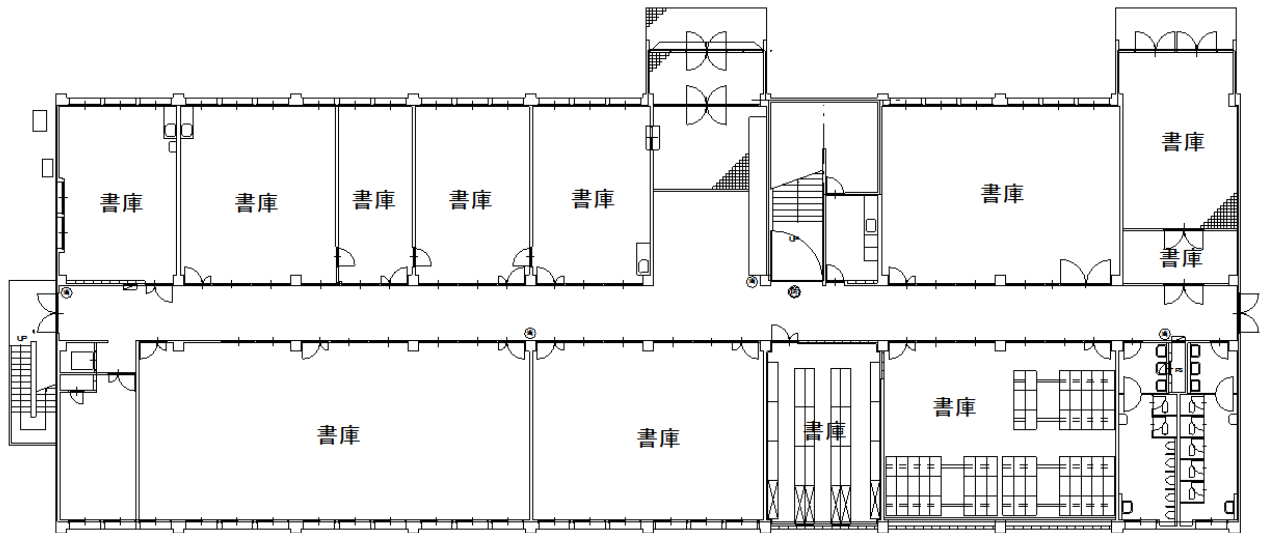
BM階

B階



(2) 旧埋蔵文化財センター

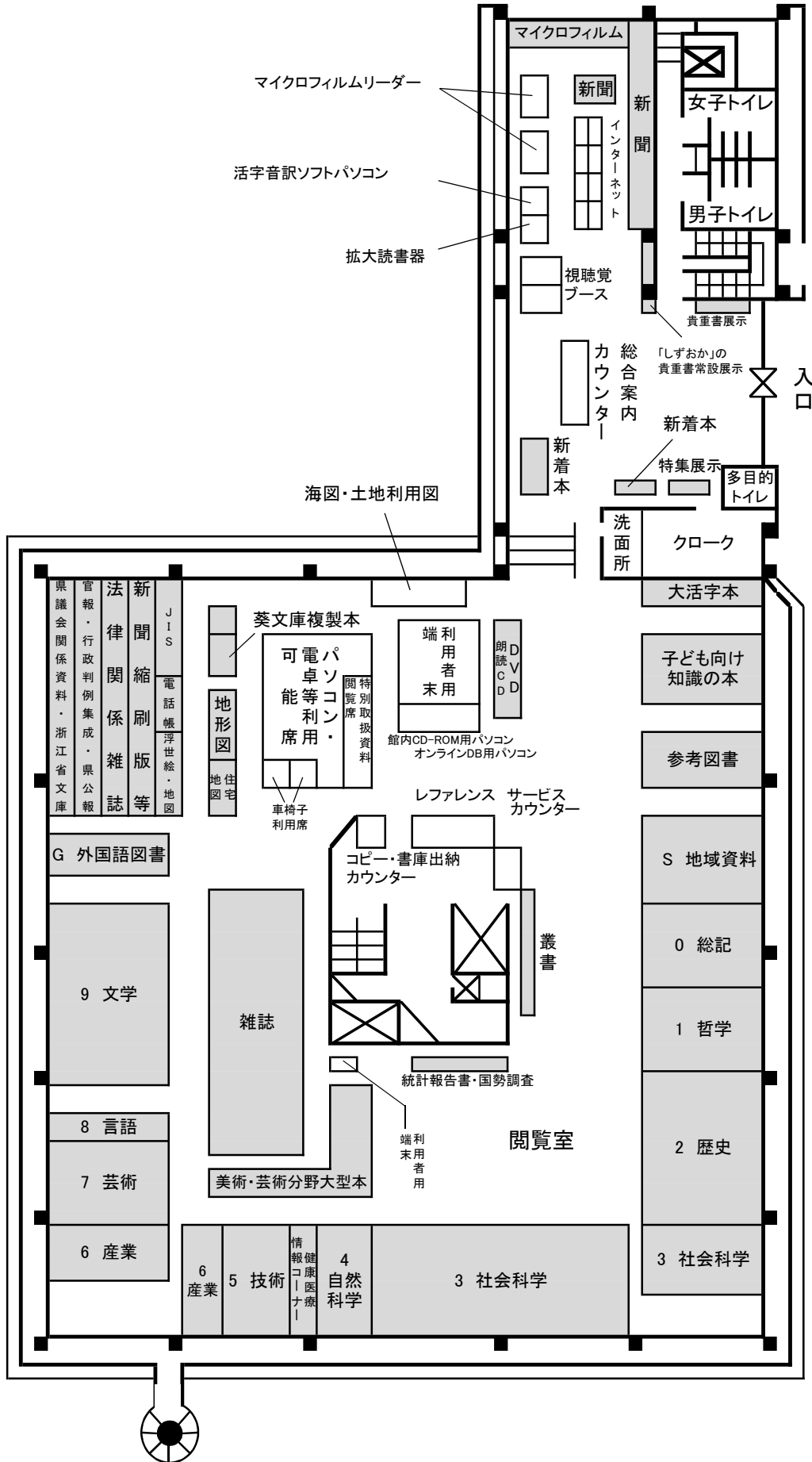
- ・鉄筋コンクリート 地上2階
- ・延面積 2,176.73 m²
- ・主な施設 1階部分を書庫として使用 (1,070.52 m²)



(3) その他建物

- ・自転車置場 107.10 m²
- ・旧埋蔵文化財センター機械室 154.68 m²
- ・ " プレハブ棟 328.06 m²

3 ブラウジング・閲覧室案内図



4 利用案内（令和2年度）

＝静岡県立中央図書館＝

◆開館時間

午前9時～午後5時

（水、木、金曜日（祝日を除く）は午前9時～午後7時）

◆休館日

館内整理日（毎月の末日（平日）、第1・3・5月曜日（祝日の場合は翌日））

特別整理期間

年末年始（12月28日～1月3日）

県立中央図書館長が指定する日

◆資料

- 一般図書・外国語図書・地域資料・児童資料
- 新聞・雑誌・マイクロフィルム
- DVD・朗読CD等視聴覚資料
- 特別取扱資料（葵文庫、久能文庫など）

原本の閲覧については事前に可否の確認と予約が必要
問合せ先 調査課一般調査班（TEL 054-262-1244）

◆閲覧・貸出・複写

- 閲覧室には約10万冊の資料が開架になっており、閲覧室は約200席
- 図書、雑誌、付録の貸出しは合わせて一人20点、22日以内
視聴覚資料の貸出しは一人3点まで、22日以内
初めての方は、住所等の確認できるものが必要（身分証明書、運転免許証等）
- 資料は著作権法などの許す範囲で複写可能

◆総務課（TEL 262-1242）

- 図書館運営に関すること。
- 図書館協議会に関すること。
- 予算、決算及び会計に関すること。
- 職員のサービス及び福利厚生に関すること。
- 施設等の管理及び運営に関すること。
- 財産及び物品の管理に関すること。
- 講堂、会議室の利用に関すること。

◆企画振興課（TEL 262-1246）

- 図書館業務の企画、調査及び広報に関すること。
- 図書館職員の研修に関すること。
- 図書館講座・展示会の開催に関すること。
- 公共図書館運営の支援及び協力に関すること。
- 情報システムの管理、運用及び調整に関すること。
- 関係団体に関すること。
- 新館整備検討に関すること。

◆資料課（TEL 262-1243）

- 一般資料、外国語資料、児童資料、視聴覚資料、逐次刊行物の受入れ及び整理に関すること。
- 資料の相互貸借・協力貸出に関すること。
- 寄贈資料に関すること。
- 閲覧業務に関すること。
- グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」、子ども図書研究室に関すること。
- 静岡県視聴覚ライブラリーの資料に関すること。

◆調査課（TEL 262-1244、1245）

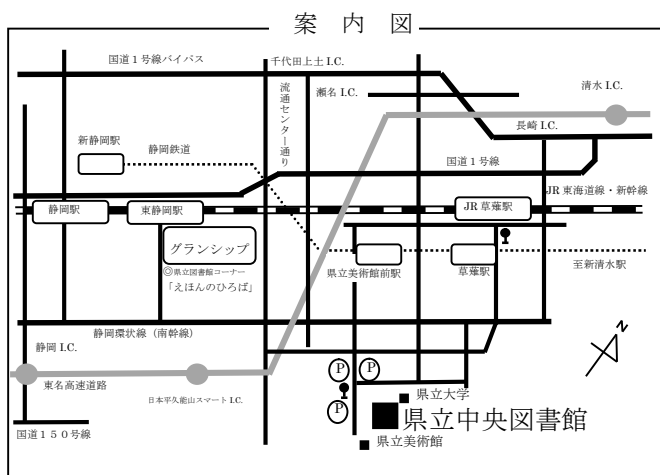
- レファレンスに関すること。
- 特別取扱資料に関すること。
- 資料の掲載等に関すること。
- 地域資料の収集、整理、保存に関すること。
- 歴史文化情報センターに関すること。
- 静岡駿河区教科書センターに関すること。

所在地 〒422-8002

静岡市駿河区谷田 53-1

TEL 054-262-1242(代)

FAX 054-264-4268



＝グランシップ県立図書館コーナー＝ 「えほんのひろば」

◆開館時間

午前9時30分～午後6時

◆休館日

静岡県コンベンションアーツセンターが全館休館日として指定する日

国民の祝日・休日（5月3日～6日、8月11日、11月3日、2月23日を除く）

年末年始（12月28日～1月3日）

県立中央図書館長が指定する日

◆業務内容

- 児童図書（絵本）の閲覧、貸出、返却
- 本館資料の貸出・返却
- レファレンスサービス

所在地 〒422-8005

静岡市駿河区東静岡2-3-1

（静岡県コンベンションアーツセンター
「グランシップ」2階）

TEL 054-202-2131

FAX 054-202-2131

＝歴史文化情報センター＝

◆開館時間

午前9時～午後5時

◆休館日

土曜日

日曜日

国民の祝日

年末年始（12月29日～1月3日）

◆資料

- 静岡県史・静岡県史研究・静岡県史だよりなど
- 明治時代以降の県内発行の新聞
- 他府県史・他都道府県の市町村史
- 古文書、新聞等の複写及びマイクロフィルム

◆業務内容

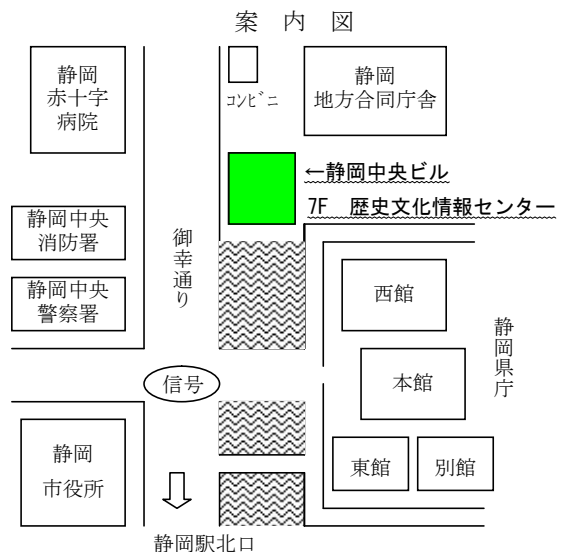
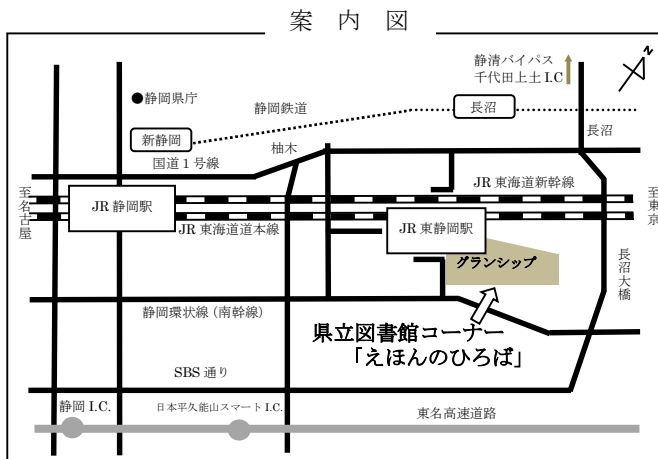
- 県史編さんの収集資料の保存・整理・公開に関すること。
- 刊行物及び県内の歴史・民俗等に関する問い合わせへの回答。
- 開架図書・資料の公開

所在地 〒420-0853

静岡市葵区追手町9-18（静岡中央ビル7F）

TEL 054-221-8228

FAX 054-255-3988



表紙 『上村翁旧蔵浮世絵集 51 冊子仕立 風景・風俗』

当館請求記号：K915-108-051-052

画題（題名）：模様

絵師（画工名）：なし

出版年不明

員数 1 枚

版型 中判

彩色 あり

〈上村翁旧蔵浮世絵について〉

当館が所蔵している約 5,000 枚にのぼる浮世絵は、山形県米沢市出身の上村順太郎氏が集めたもので、昭和 11（1936）年、嗣子五郎氏により寄贈されたものです。作者別に見ると、三代豊国の作品が最も多く、国周、芳年、周延、国芳と続き、幕末から明治の作品がほとんどです。ジャンルとしては、役者絵が圧倒的な数を占めます。（「葵」30 号参照）

この表紙の模様は『上村翁旧蔵浮世絵集 51 冊子仕立 風景・風俗』に収められていて、浮世絵に使われている文様の配色、配置、図案を見ることができます。

葵 54 号

令和 2 年 6 月 1 日発行

編集・発行 静岡県立中央図書館

〒 422-8002 静岡市駿河区谷田 53-1

電話 (054) 262-1242 (代)

F A X (054) 264-4268

<https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/>

